

平成30年度文部科学省委託
「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」

「専修学校版デュアル教育」
医療事務分野実習ガイドライン

一般社団法人 全国専門学校教育研究会

「専修学校版デュアル教育」
医療事務分野実習ガイドライン

一般社団法人 全国専門学校教育研究会

目 次

1. 医療事務分野における専修学校版デュアル教育ガイドラインの概要	1
1.1 医療事務分野における専修学校教育の課題認識.....	1
1.2 本ガイドラインの趣旨・目的.....	1
1.3 本ガイドラインの適応範囲.....	2
2. 本ガイドラインが定めるデュアル教育の要点	3
2.1 デュアル教育の定義と教育目標.....	3
2.2 デュアル教育の特徴・基本方針.....	5
2.2. ① 教育の実施主体および対象となる学習者.....	5
2.2. ② 従来の教育手法・内容との違いおよび解決・改善が見込まれる教育課題.....	5
2.2. ③ デュアル教育に関わる各プレイヤーの役割とメリット.....	6
2.3 標準的なカリキュラムモデル.....	7
3. デュアル教育の具体的な内容および構築方法	11
3.1 デュアル教育の準備～実施～評価・改善フロー.....	11
3.2 デュアル教育の準備～実施～評価・改善手順.....	12
3.3 デュアル教育の企図（Plan）.....	16
3.4 デュアル教育の実施（Do）.....	21
3.5 デュアル教育の評価（See）.....	32
4. 教育支援ツール	34
4.1 ツール名：① 業務補助型実習事前学習状況チェック表【学生用】.....	34
② 業務補助型実習事前学習状況チェック表【教員用】.....	34
③ 業務補助型実習事前学習状況.....	34
④ 体験型実習事前学習状況チェック表【学生用】.....	34
⑤ 体験型実習事前学習状況チェック表【教員用】.....	34
4.2 ツール名：実習依頼書.....	34
4.3 ツール名：実習受入承諾書.....	35
4.4 ツール名：実習概要確認書.....	35
4.5 ツール名：実習生個人票.....	35
4.6 ツール名：実習委託契約書.....	36
4.7 ツール名：誓約書.....	36
4.8 ツール名：①医療事務実習オリエンテーション資料.....	36
②体験型実習事前学習シート.....	36
4.9 ツール名：実習先概要確認書（学生）.....	37

4.10	ツール名：①医療事務実習日誌.....	37
	②体験型実習の記録.....	37
4.11	ツール名：医療事務実習巡回記録.....	38
4.12	ツール名：医療事務実習後の礼状例文	38
4.13	ツール名：①業務補助型実習のまとめ.....	38
	②体験型実習のまとめ	38
4.14	ツール名：①業務補助型実習評価表【医療機関用】.....	39
	②業務補助型実習評価表【学生用】	39
	③業務補助型実習評価総括表.....	39
4.15	ツール名：①実習スケジュール【病院】.....	39
	②実習スケジュール【診療所】.....	39
4.16	ツール名：医療事務実習プログラムアンケート	40
4.17	ツール名：実習プログラム改善シート	40
5.	トラブルシューティング	41
5.1	ワクチン接種の義務付けへの対応.....	42
5.2	実習生の遅刻・欠席（無断欠席）.....	43
5.3	実習先指導者からのハラスメント.....	44
5.4	実習先の所有物（備品・什器など）の破損.....	45
5.5	学生の SNS への書き込み（病院情報・実習への不満など）	45
6.	事業のプロセス	47
7.	本事業の医療機関所属委員からのメッセージ	52

1 医療事務分野における専修学校版デュアル教育ガイドラインの概要

1.1 医療事務分野における専修学校教育の課題認識

グローバル化やIT化が加速する中、医療業界のライフサイクルも短くなり、医療機関の人材ニーズもより多様に、より早く更新されるようになってきている。こうした状況が急速に変化して行く社会では、社会人基礎力のような汎用的な能力、加えて、自らのキャリアを自律的に切り拓く能力が重要となっている。医師や看護師といった医療従事者に対する病院実習の内容や方法は、厚生労働省の養成施設としての指導によりほぼ確立した感があるものの、医療事務職を目指す学生は、当該専門知識技能に加えて、人間関係構築力や課題解決能力そしてキャリア形成力等の実務能力を医療関係機関との連携による段階的かつ計画的に育成する仕組みが必要である。

最近の学生では、職業選択と乖離したキャリア形成支援が多く見られ、医療人として働く意味、職種に対する知識・体験がない状況で進路選択が行われ、結果として採用ミスマッチによる早期離職などの問題が生じている。

このような問題を解決するために、教育深度に合わせ、それぞれの段階における医療機関との連携を体系的に位置づけた教育システムの構築、普及することが喫緊の課題となっている。

1.2 本ガイドラインの趣旨・目的

現状の医療事務分野で行われている医療機関との連携は、各学校がそれぞれの地域で独自に行う連携が多く、地域で大きなバラツキが見受けられる。

体系だった標準カリキュラムや医療機関との連携教育が整備されていないため、以下のような事が見受けられる。

- ① 受け入れ手続きが体系的に確立されていないことやそれに対応するツールの整備が不十分であるためにトラブルが生じる。
- ② 医療機関側のメリットを伝えることが出来ず、円滑に学生を受入れていただくことが難しい。
- ③ 学校側の教育ニーズと実際に行われている実習とでミスマッチが生じ、計画通りの学習成果を得る事が出来ない。
- ④ 受入れ段階での学生の知識や技術レベルが受け入れ側に伝わらないために実習が計画通りに進まない。
- ⑤ 実習期間中の医療機関、学校、学生のコミュニケーションが不足することが原因となり途中でリタイアする学生が見受けられる。
- ⑥ 学習成果の評価の標準化が出来ていないために受入れ担当者によって評価にバラツキが生じる。
- ⑦ 実習終了後の評価プロセスが設計されていないため、実習による成果の確認、評価、振り返りを行うことが難しく、PDCAサイクルを確立することが困難。

こうしたことから、本ガイドラインでは、各地域で行われている医療事務分野の医療機関連携の実態を調査し、その結果を元に、人口30～80万人程度の地方大都市圏を主とした地域および職種から見た汎用性と特異性のある医療機関との連携を類型化した上で、学習と実践を組み合わせる行う効果的な連携を促し能動的な学修成果を高めるための（共通・個別）ガイドラインを作成する。

本事業の成果物であるガイドラインを、全国各地に普及することにより、医療機関との連携を促し、医療事務分野におけるアクティブラーニングによる教育の質保証・向上に寄与する取り組みである。

1.3 本ガイドラインの適応範囲

本ガイドラインでは、各地域におけるクリニックでの実習を前提に以下の3パターンの実習のあり方、およびその事前学習、実習中、事後学習を対象とする。

① 体験型実習

1年次前・中期に行われる実習で、「働くことの意味」「医療とはどのような仕事なのか」等を現場で体験することにより職業意識を醸成するとともに学習意欲の向上を目的として実施する実習

② 業務補助型実習

1年次後期～2年次中期に行われる実習で、事前学習として学んだ知識や技能・技術を現場の職員の補助的な立場で携わり、医療人としての知識・能力を確認することや職業選択のミスマッチ等を解消するために実施する実習

③ 業務参画型実習

2年次中・後期に行われる就職前に行われる実践的な実習で医療機関と学生が互いに理解し合うことを目的として行われる実習

2 本ガイドラインが定めるデュアル教育の要点

項目	本ガイドラインが定めるデュアル教育の内容	
教育分野	医療事務分野	
対象となる学生の年次	1年次又は2年次	
教育の特徴	①従来の医療機関委託の実習が多く見られる状況から、専修学校と医療機関が共同して標準的カリキュラム設計を行う ②専修学校での履修段階に応じて、医療現場での実習プログラムを段階的に設定し、学生が主体的に参加し、発展的に学ぶことができるものである ③設計されたカリキュラムをもとにして、医療機関の受入体制、学生・学校の実情に応じて、調整可能なものである	
実習内容	実施形態	①医療機関における医療事務の業務体験による実習 ②医療機関における業務補助実践による実習
	実施時期・期間	①1年次学習開始初期の7月～9月 1~3日間 ②1年次学習修了時の2月～3月又は2年次前期の5月～6月 1週間程度と3週間程度の2パターンを想定するものである
	学生の処遇	原則として、無償での実施

2.1 デュアル教育の定義と教育目標

本ガイドラインにおける「デュアル教育」は、以下のように定義づけるものである

- 医療事務者を目指し教育機関に入学し、所定カリキュラムを履修している学生を対象とするものである
- 2年間の専修学校での学習カリキュラムにおいて履修した内容を、適切な時期に、医療現場で実践をする機会を得ることで、学生自身による学習の検証、実習後の学習に発展的につなげるものである
- 履修段階に応じた実習形態として、以下のように区分している
 - ① 体験型 期間：概ね1～3日間程度
内容：社会人、医療人としての職業意識の育成のための導入教育期であり、医療機関の職員の業務を見ることを主とする
 - ② 業務補助型 期間：概ね1週間又は3週間（医療機関の規模等により差異あり）
内容：学生自身が補助的な業務の実践を主とする
 - ③ 業務参画型 期間：概ね1週間以上程度
内容：就職前の実践的な業務参画を主とする
 上記実習形態のうち、③業務参画型については、任意参加も想定するものであり、本ガイドラインにおいては規定をしない。
- 専修学校は、本プログラムを実践することにより、以下のような要件を備えた人材を育成・輩出することを目指すものである

- ・医師やコ・メディカルと患者をつなぐ架け橋、情報伝達のプロとしての人材
- ・周囲の期待に応えられる医療事務者としての知識を持ち合わせ、即戦力となる人材
- ・社会で自立し、自ら学ぶ力を持った人材

このような人材が保有する知識・スキル、具体的な教育目標は以下の通りである。【表2-1】

なお、ここで示す目標は、本プログラムを実践することで最低限・共通目標を適宜追加・拡大することを妨げるものではない

■ 表 2-1 本プログラムにより達成されるべき教育目標

項目	知識・スキル	到達水準(目標)
コミュニケーション	コミュニケーション力	・患者や職員と適切にコミュニケーションを図ることができる
職業意識	社会人基礎力	・業務遂行に当たり、適切に報告・連絡・相談を行うことができる
接遇・マナー	接遇・マナー	・業務遂行に当たり、ふさわしい身だしなみ、適切な接遇で対応をすることができる
業界理解	医療機関についての知識・施設基準	・実習先医療機関について、主体的に調べ、実習に役立てることができる
患者案内・患者対応	患者心理理解	・来院された患者の特性(高齢者・乳幼児等)を意識した対応を行うことができる
受付業務	医療保険制度 医事コンピュータ 医療事務 診療記録の知識 人体構造機能論	・初診患者来院時の受付業務を行うことができる ①問診票の記載説明確認ができる ②被保険者証等の確認ができる ③診察券の作成ができる ④診療録の作成準備ができる ・再来患者来院時の受付業務を行うことができる
診療録の運用管理	診療録の 保管・管理	・診療録を、適切な方法で、適切な場所に保管管理し、必要に応じて速やかに用意することができる ・診療諸記録を、診療録内に適切な方法で整理することができる
外来診療のレセプト請求業務	医療事務 診療報酬請求事務 医事コンピュータ	・診療録の記載から、外来診療の簡易な内容について理解することができる。 ・外来診療のレセプト請求業務について理解することができる
外来診療の一連の流れ		・上記外来受付、診療録の運用管理等について患者対応を行うことができる
実習総括	(プレゼンテーション)	・実習内容を整理し、課題を発見することができる ・次段階の目標を設定し、実行の計画を立案することができる

2.2 デュアル教育の特徴・基本方針

2.2.① 教育の実施主体および対象となる学習者

本ガイドラインに示したデュアル教育のプログラム受講者は、専修学校において、医療事務分野を履修中の1年生または2年生の学生を対象とする。専修学校から提示した実習プログラムを基に医療機関と共同して、実習を行うものである

2.2.② 従来の教育手法・内容との違いおよび解決・改善が見込まれる教育課題

本プログラムで提示する実習プログラムは、従来の医療機関実習と比較して、以下の点に特徴を有しており、従来の課題の解決・改善につながる

- 実習カリキュラムについては、学校から医療機関に提示をし、両者で確認の上で決定されるものであること。従来型実習では、受入先医療機関に委ねられることも多く、実習当日まで、実習内容がわからない等の問題も見られた。標準化プログラムを使用することで、学生自身による既習内容の整理、準備等を進める指導に役立てることが期待できるとともに、医療機関の負担軽減、指導者育成、指導体制構築に寄与するものであることが期待される

本プログラムは、医療機関の受入体制、学生や学校の実情に応じて調整可能なものである

- 実習評価については、

<体験型実習>

- ① 実習前に、実習中の確認したい内容(着眼点)を自身で設定し、実習後まとめる手順を踏むことにより、主体的な学びを喚起するとともに、自己の学習評価を行うものである
- ② 実習指導者は、学生の設定した着眼点について、実習中に獲得した内容、実習後に発展的な学習展開につながる評価、助言を行うものである

<業務補助型実習>

- ① 学生による自己評価と医療機関による他者評価をそれぞれ行うものである
- ② 評価方法については、統一的な3段階評価と学生の特性に着目した記述式評価の2つを併用するものである
 - ①については、自己と他者の評価の差異を受け止め、その原因を考えることにより、実習後の学習に向けての課題発見につなげるものである。
 - ②については、実習評価について事前に医療機関担当者の理解を得た上で、統一的な評価基準に基づいて評価を行うものである

- 実習前学習と実習後学習を実施することにより、学生自身が主体的に学習意欲を高め、実習前→実習中→実習後の一連の学習活動を目的意識的に取り組むことができるものである

- ① 実習前学習において

<体験型実習>

学生自身が、実習中に注目したい着眼点を設定し実習に臨むことで、実習現場において具体的な学びの契機とすることができる

＜業務補助型実習＞

実習先医療機関の特徴や診療科等を自ら調べ、入学時からの学習内容と現場の事例を関連づけて考えることを通して、実習前に学習の受け皿を作って実習に臨むことができる

②実習後学習において

＜体験型実習＞

実習体験を通して感じた、職業を通しての人の関りや働くことの喜びを表現したり、事前に設定した着眼点について整理することを通して、今後の学習意欲につなげることができる

＜業務補助型実習＞

実習中に自身が学んだことを整理し、適切な表現方法を用いて他者に伝えることを通して、理解がさらに深まり、その後の学習目標を発展的に発見することができる

- 実習前、実習中、実習後に使用する書類等については、内容の見直しを行い、ツール集としてまとめられたものであること。これによって学校毎に異なっていた書類が統一され、医療機関の負担の軽減が図られるとともに、学校としても標準的な必要書類を取りまとめていくことが可能となる

2.2.③ デュアル教育に関わる各プレーヤーの役割とメリット

本プログラムに関与するプレーヤー＜専修学校＞＜学生＞＜医療機関＞とそれぞれの役割・メリットを整理すると、以下の通りである。

■ 表 2-2 本プログラムに関与するプレーヤーとの役割・メリット

プレーヤー	役割	メリット
専修学校	具体的プログラムの作成を行い、医療機関との情報共有を行い、実習の調整を行う。学生に対しては、必要に応じて適切な助言・指導を行う。 プログラムの全体統括者 運営の責任者	<ul style="list-style-type: none">・実習先医療機関と共同して、プログラム実施を進めることで、受講者である学生に対して、より質の高い教育を提供することができる・明確となった教育課題を解決し、改善に結びつけることができる・医療機関との連携を通じて、業界情報を共有、交流を図ることができる
学生	プログラムによる教育を受講し、自身の立てた学習目標達成に向けて行動、その結果をフィードバックすることで教育改善に貢献する	<ul style="list-style-type: none">・実践的な教育を受講することができる、卒後の職業イメージを想定することができる・標準的プログラムを受講し、評価を受けていることで、就職など今後のキャリアで有利となる
医療機関	専修学校と緊密に協議した上で、実践的かつ適切な医療機関実習の機会を提供する	<ul style="list-style-type: none">・実習指導を通して、自院の職員指導体制の一助となることが期待される・職員採用に当たり、標準的プログラムを履修、評価のプロセスを終了した学生について、採用検討の参考とすることができる・教育機関との連携を通して、業界情報を共有、交流を図ることができる

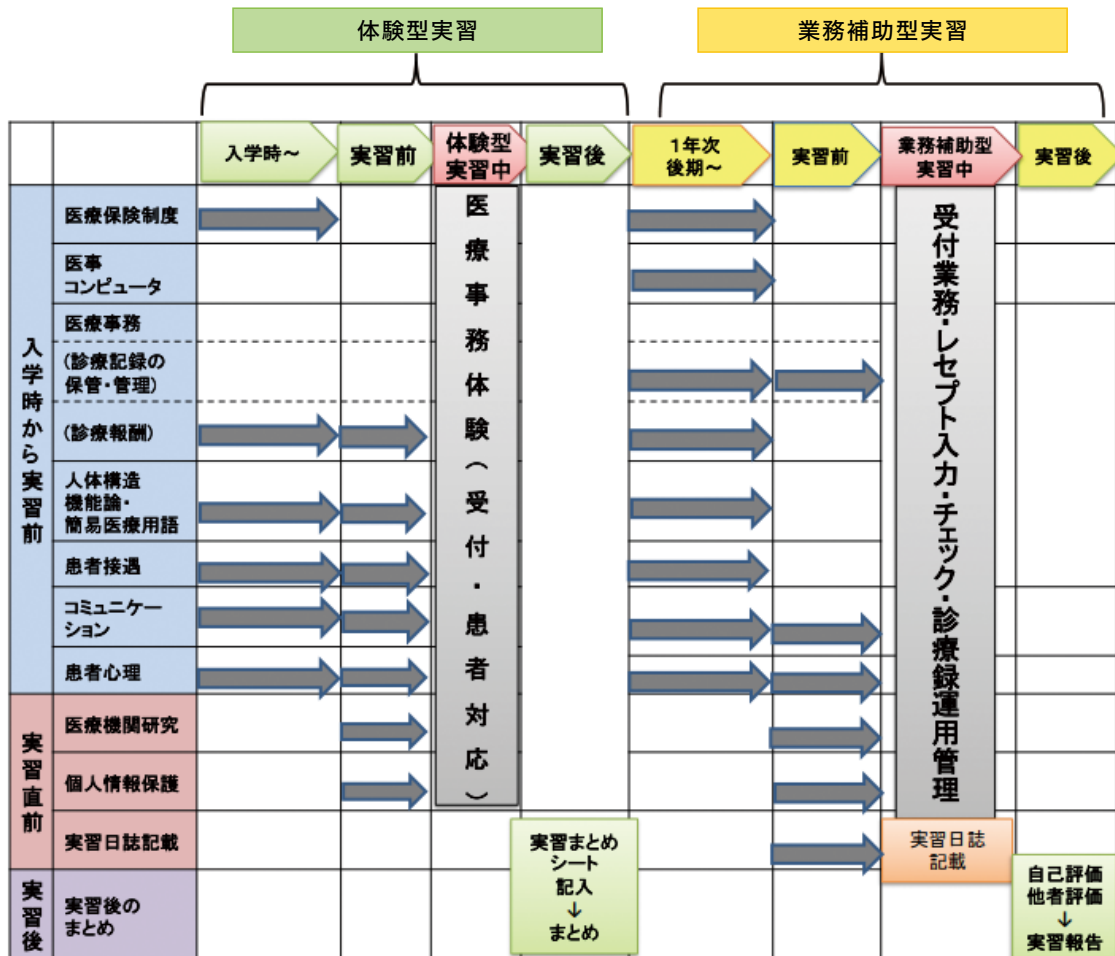
2.3 標準的なカリキュラムモデル

■ 2年間の流れ

1年次		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1. コミュニケーション													
2. 職業意識													
3. 接遇マナー													
4. 業務理解		入学～体験型実習前											
①患者案内・対応													
②受付業務													
③外来診療の流れ													
④外来診療の会計業務													
⑤診療録の運用・管理													
⑥診療報酬の会計業務													
⑦病院経営の知識													

2年次		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1. コミュニケーション													
2. 職業意識													
3. 接遇マナー													
4. 業務理解													
①患者案内・対応													
②受付業務													
③外来診療の流れ													
④外来診療の会計業務													
⑤診療録の運用・管理													
⑥診療報酬の会計業務													
⑦病院経営の知識													

■ 標準的なカリキュラムモデル (図 2-3)



■ 入学時～体験型実習前

カリキュラム	学習達成状況
医療保険制度	<ul style="list-style-type: none">・医療保険制度の概要を理解し、仕組みについて説明することができる・公費負担医療制度の概要を理解し、説明することができる・患者負担割合、給付割合について、その違いを理解し、説明することができる
医療事務・診療報酬請求	<ul style="list-style-type: none">・診療記録について、保存期間及び記録方法を説明することができる
人体構造機能論 医療用語	<ul style="list-style-type: none">・簡易な医療用語について理解し、説明することができる
接遇マナー	<ul style="list-style-type: none">・基本的な接遇マナーで、他者と接することができる
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none">・挨拶や聞かれたことへの受け答えなど、基本的なコミュニケーションを図ることができる

■ 体験型実習直前

カリキュラム	学習達成状況
実習医療機関研究	<ul style="list-style-type: none">・実習先医療機関の診療科など施設概要を調べ、整理することができる
個人情報保護の取扱い	<ul style="list-style-type: none">・個人情報の適切な取扱いを学び、留意する点を想定することができる
医療機関における接遇マナー	<ul style="list-style-type: none">・授業で学んだ身だしなみや挨拶について、実習中に実践することができる
患者心理	<ul style="list-style-type: none">・来院患者の特性に応じて、患者の心理状態の違いや対応に留意が必要な状況を想定することができる

■ 体験型実習中

実習項目	学習達成状況
受付業務	<ul style="list-style-type: none">・受付での一連の業務内容（問診票、被保険者証の取扱い、診察券・診療録作成等）を体験し、職員の行う業務から観察し、自身が学んだ内容を整理することができる
患者案内・患者対応	<ul style="list-style-type: none">・患者対応を体験し、職員の行う業務から学んだことを整理することができる

■ 体験型実習後

カリキュラム	学習達成状況
体験型実習まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・実習直前学習で設定した着眼点をもとにまとめシートに整理し、課題を抽出することができる

■ 体験型実習後～業務補助型前

カリキュラム	学習達成状況
医療保険制度	<ul style="list-style-type: none"> ・医療保険全般（医療保険、公費負担医療制度、後期高齢者医療制度）を理解し、それぞれの特徴について説明することができる ・各種医療保険の保険情報について理解し、被保険者証から確認することができる ・主な公費について、医療券及び受給者証等を確認することができる ・健康保険法における主な医療給付について理解し、説明することができる
医事コンピュータ	<ul style="list-style-type: none"> ・患者登録、病名入力、診療内容入力とこれらの確認ができる
医療事務・診療報酬請求	<ul style="list-style-type: none"> ・診療録の記載内容を見て、どのような医療行為が行われたか確認ができる ・上記内容について、診療報酬のルールに従い、算定をすることができる
人体構造機能論 医療用語	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な人体構造について理解をし、診療録の記載（病名・診療内容）から、対象の部位等を関連づけることができる ・頻度の高い医療用語について理解し、説明することができる
接遇マナー	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な接遇マナーで、他者と積極的に接することができる
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や聞かれたことへの受け答えなどに加えて、その場に合ったコミュニケーションを積極的に行うことができる

■ 業務補助型実習直前

カリキュラム	学習達成状況
実習医療機関研究	・実習先医療機関の診療科や患者の特性、施設基準など施設概要を調べ、整理することができる
個人情報保護の取扱い	・個人情報の適切な取扱いを学び、留意が必要な場面を想定し、状況判断を仰ぐことができる
実習日誌の記載	・実習日誌の記載のルールを学び、実習内容を適切にまとめることができる
診療録の保管・管理（診療記録）	・診療録の適切な保管管理方法、留意点について学んだ内容を説明することができる ・診療録内の諸記録、帳票類について学んだ内容を説明することができる ・電子カルテについての理解
医療機関における接遇マナー	・医療機関における状況を想定して、実践的な接遇を行うことができる
患者心理	・来院患者の特性に応じた対応を行うことができる

■ 業務補助型実習中

実習項目	学習達成状況
受付業務	・受付での一連の業務内容（問診票、被保険者証の取扱い、診察券・診療録作成等）を理解し、行うことができる
患者案内・患者対応	・患者の特性、状況等を考慮して、適切な対応を行うことができる
診療録の運用・管理	・診療録の作成から保管管理の一連の流れを理解し、個人情報の取扱いに留意して取り扱いを行うことができる
外来診療のレセプト請求業務	・外来診療の診療録を確認して、レセプト請求業務について職員の業務を観察し、自身が学んだ内容を整理することができる
外来診療の一連の流れ	・外来受付、診療録の運用管理について理解し、適切に実行することができる

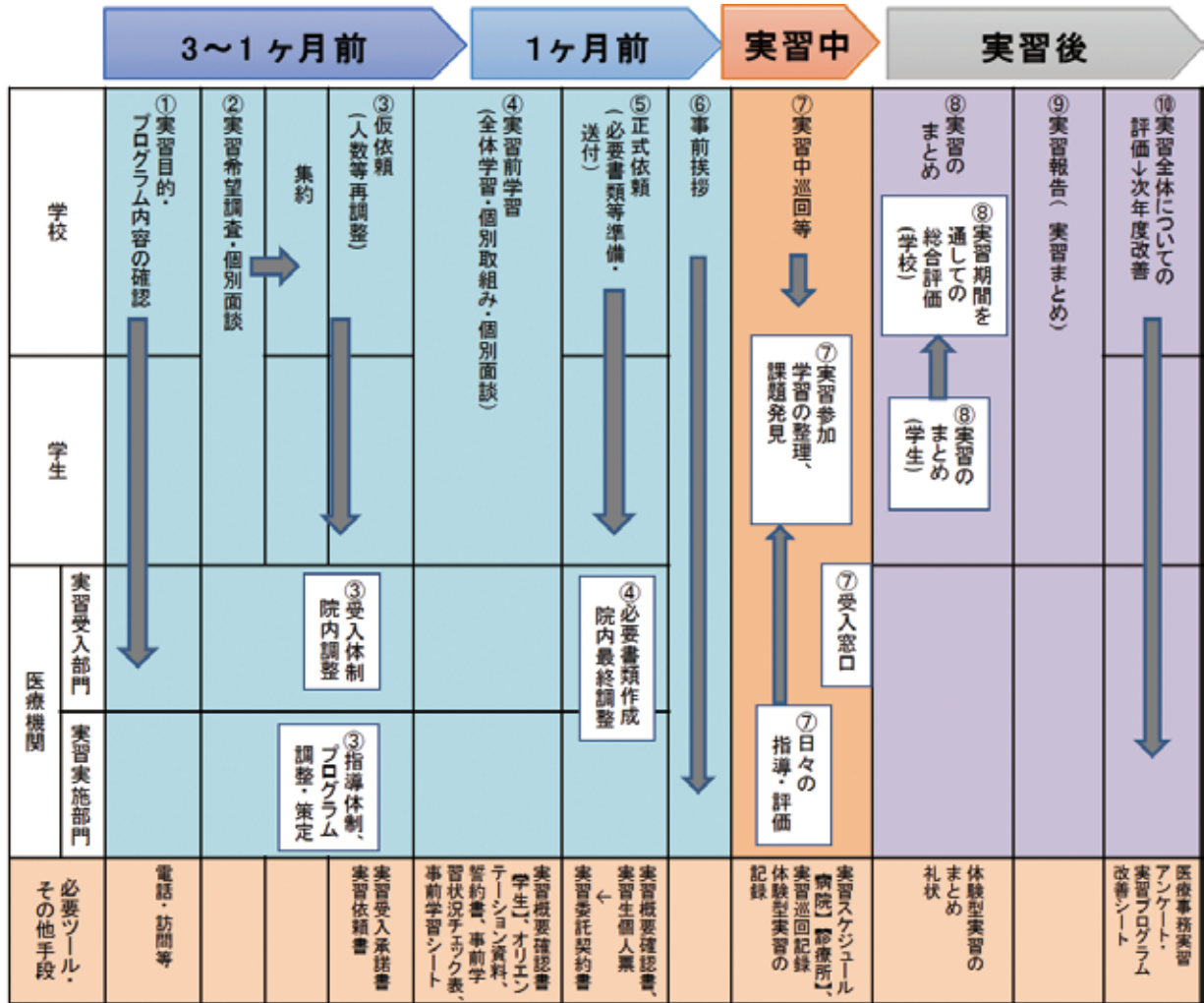
■ 業務補助型実習後

カリキュラム	学習達成状況
実習評価 自己評価 自己評価と他者評価の分析	・評価表を活用して、自己評価を実施することができる ・他者評価（医療機関）との違いを分析して、自身の課題を抽出することができる
実習報告・発表	・実習内容を整理することができる ・次段階の目標を設定し、実行に向けて計画を立案することができる ・上記内容について、構成立てて発表を行うことができる

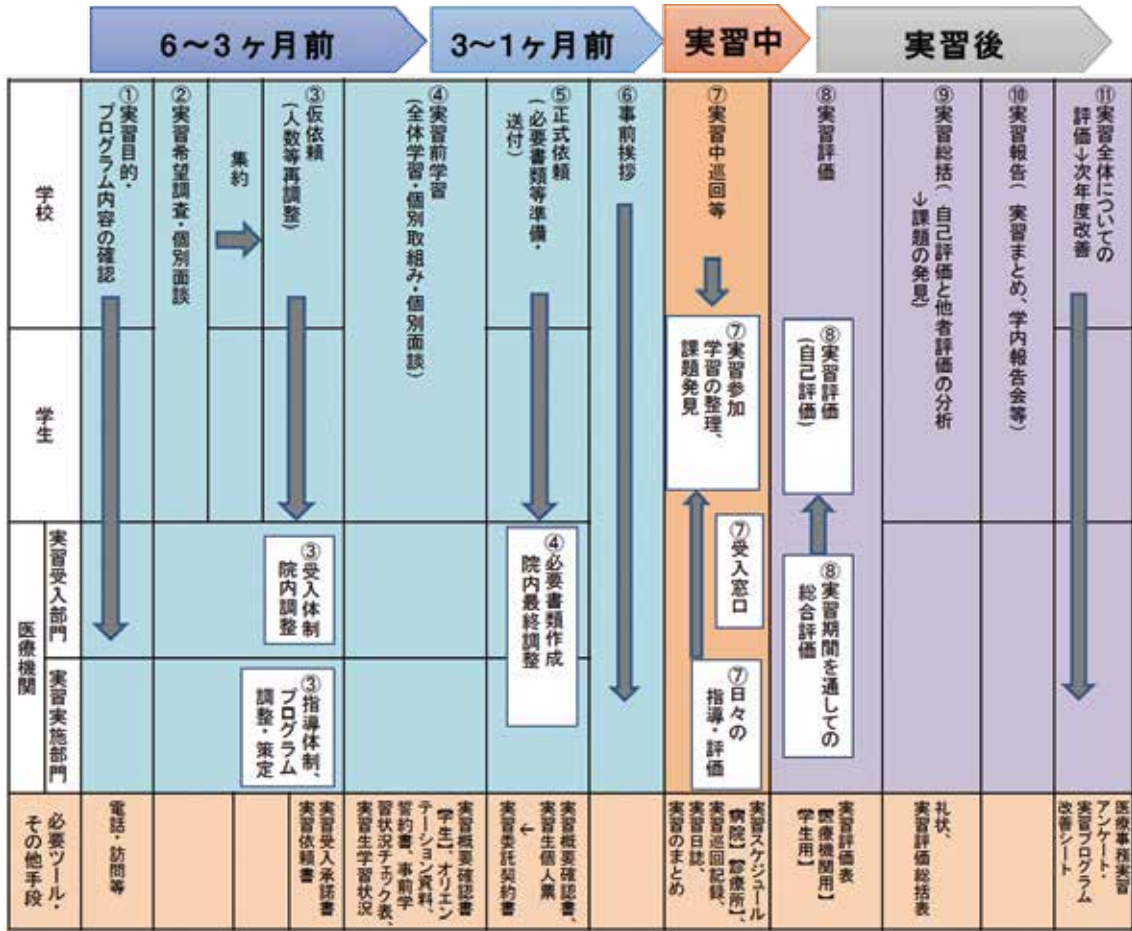
3 デュアル教育の具体的な内容および構築方法

3.1 デュアル教育の準備～実施～評価・改善フロー

■ 体験型実習 (図3-1-①)



■ 業務補助型実習 (図3-1-②)



3.2 デュアル教育の準備～実施～評価・改善手順

■ 体験型実習 (図3-2-①)

学校		①実習目的・プログラム内容の確認	②実習希望調査・個別面談	③仮依頼 (人数等再調整)	④実習前学習 (全体学習・個別取組み・個別面談)	⑤正式依頼 (必要書類等準備・送付)	⑥事前挨拶	⑦実習中巡回等	⑧実習のまとめ	⑩実習報告 (実習のまとめ等)	⑪実習全体についての評価 ↓次年度改善						
必要ツール	No.		4.2	4.3	4.1 ④-① ④-⑤	4.7	4.8 ①-②	4.9	4.4	4.5	4.6	4.10 ②	4.11	4.15 ①-②	4.13 ②	4.12	4.16 4.17
	ツール名		実習依頼書	実習受入承諾書	体験型実習事前学習状況チェック表 (学生用) (職員用)	誓約書	医療事務実習オリエンテーション資料 事前学習シート	実習先概要確認書 (学生)	実習概要確認書	実習生個人票	実習委託契約書	体験型実習の記録	実習スケジュール (病院・診療所)	医療事務実習巡回記録	体験型実習のまとめ	礼状	医療事務実習プログラムアンケート 実習プログラム改善シート

■ 表 3-2-① デュアル教育における使用ツールと関連するプレーヤー<体験型実習>

時期	使用ツール	関連するプレーヤー			3.2参照 ページ	
			作成者	管理者		
①						
②						
③	4.2	実習依頼書	学校⇄医療機関	医療機関	学校	P16
	4.3	実習受入承諾書	学校⇄医療機関	医療機関	学校	P19
④	4.1 -④ -⑤	体験型実習事前学習状況 チェック表【学生用】 【教員用】	学校→医療機関	学生、 教員(学校)	医療機関	P22
	4.7	誓約書	学校→医療機関	学生(学校)	医療機関	P20
	4.8	体験型実習事前学習シート	学校⇄学生	教員(学校)	学生	P25
	-②	<参考資料>4.8-①医療事務実習オリエンテーション資料				
	4.9	実習先概要確認書【学生】	学校⇄学生	学生	学校・学生	P26
⑤	4.4	実習概要確認書	学校⇄医療機関	医療機関	学校	P17
	4.5	実習生個人票	学校・学生→医療 機関	学生(学校)	医療機関	P21
	4.6	実習委託契約書	学校⇄医療機関	学校	学校・医療 機関	P17
⑥						
⑦	4.10-②	体験型実習の記録	学校・学生⇄医療 機関	学生 (指導) 医療機関	学校	P28
	4.11	医療事務実習巡回記録	学校	教員(学校)	学校	P29
	4.15 -① -②	実習スケジュール【病院】 実習スケジュール【診療所】	学校・学生⇄医療 機関	医療機関 (学校側から提 案の場合あり)	学校・学生	P23
⑧	4.13-②	体験型実習のまとめ	学校・学生⇄医療 機関	医療機関 学生	学校	P30
	4.12	医療事務実習後の礼状例文	学生→医療機関	学生	医療機関	P27
⑨						
⑩	4.16	医療事務実習プログラム アンケート	学校⇄医療機関	医療機関	学校	P32
	4.17	実習プログラム改善シート	学校⇄医療機関・ 学生	医療機関・ 学生	学校	P33

■ 業務補助型実習 (図3-2-②)

学校		①実習目的・プログラム内容の確認	②実習希望調査・個別面談		③仮依頼 (人数等再調整)		④実習前学習 (全体学習・個別取組み・個別面談)			⑤正式依頼 (必要書類等準備・送付)		⑥事前挨拶	⑦実習中巡回等				⑧実習評価	⑨実習総括 (自己評価と他者評価の分析 ↓課題の発見)		⑩実習報告(実習まとめ、学内報告会等)	⑪実習全体についての評価 ↓次年度改善	
必要ツール	N.		4.2 4.3	4.1 ③	4.1 ① ②	4.7	4.8 ①	4.9	4.4 4.5	4.6	4.13 ①	4.10 ①	4.11	4.15 ① ②	4.14 ① ②	4.14- ③	4.12	4.16 4.17				
	ツール名		実習依頼書、実習受入承諾書	業務補助型実習前学習状況 チェック表(学生用)【教員用】	誓約書	医療事務実習オリエンテーション資料	実習先概要確認書(学生)	実習概要確認書、実習生個人票	実習委託契約書	業務補助型実習のまとめ	医療事務実習日誌	医療事務実習巡回記録	実習スケジュール 【病院】 【診療所】	業務補助型実習評価表 【医療機関用】 【学生用】	業務補助型実習評価表	礼状	医療事務実習プログラムアンケート	実習プログラム改善シート				

■ 表 3-2-② デュアル教育における使用ツールと関連するプレーヤー<業務補助型実習>

時期	使用ツール	関連するプレーヤー			3.2参照 ページ	
			作成者	管理者		
①						
②						
③	4.2	実習依頼書	学校⇄医療機関	医療機関	学校	P16
	4.3	実習受入承諾書	学校⇄医療機関	医療機関	学校	P19
④	4.1 -① -②	業務補助型実習事前学習 状況チェック表【学生用】 【教員用】	学校→医療機関	学生、 教員(学校)	医療機関	P22
	4.1-③	業務補助型実習事前学習 状況	学校→医療機関	教員(学校)	医療機関	P22
	4.7	誓約書	学校→医療機関	学生(学校)	医療機関	P20
	4.8-①	医療事務実習オリエン テーション資料	学校⇄学生	教員(学校)	学生	P25
	4.9	実習先概要確認書【学生】	学校⇄学生	学生	学校・学生	P26
⑤	4.4	実習概要確認書	学校⇄医療機関	医療機関	学校	P17
	4.5	実習生個人票	学校・学生→医療機関	学生(学校)	医療機関	P21
	4.6	実習委託契約書	学校⇄医療機関	学校	学校・医療 機関	P17
⑥						
⑦	4.10-①	医療事務実習日誌	学校・学生⇄医療 機関	学生 医療機関	学校	P28
	4.11	医療事務実習巡回記録	学校	教員(学校)	学校	P29
	4.15 -① -②	実習スケジュール【病院】 実習スケジュール【診療所】	学校・学生⇄医療 機関	医療機関 (学校側から提 案の場合あり)	学校・学生	P23
⑧	4.14 -① -②	業務補助型実習評価表 【医療機関用】【学生用】	学校・学生⇄医療 機関	医療機関 学生	学校	P30
	4.14-③	業務補助型実習評価総括表	学校⇄学生	学生	学校	P30
⑨	4.12	医療事務実習後の礼状例文	学生→医療機関	学生	医療機関	P27
⑩						
⑪	4.16	医療事務実習プログラム アンケート	学校⇄医療機関	医療機関	学校	P32
	4.17	実習プログラム改善シート	学校⇄医療機関・学生	医療機関・ 学生	学校	P33

3.3 デュアル教育の企図 (Plan)

- …業務補助型実習使用ツール ◆…体験型実習使用ツール

(1) 目的の明確化

本項目で利用する教育支援ツール

- ◆ 実習依頼書 …………… 実習受入れ可否と実習内容の確認
 ●◆ 実習概要確認書 …………… 実習内容の確認

ツール名	4.2 実習依頼書
ツールの概要説明	過去の実習受入医療機関又は新規開拓の実習予定医療機関に、電話等で連絡確認を行った後、文書としての受入依頼を行う際に、本ツールを使用する
ツールの構成及び内容	実習の可否の確認、実習期間、受入人数、実習内容の確認
プレーヤーの関わり	学校→医療機関 *実習依頼内容を確認し、学生自身が医療機関へ持参の場合あり
利用方法	①学校は、実習受入承諾書、返信用封筒を同封し、医療機関に郵送(又は学生自身が持参)をする ②医療機関は、内容を確認し、必要事項を記載し、学校に返信をする
留意点	・医療機関送付時に、4.3実習受入承諾書、返信用封筒を同封する ・医療機関と学校間で、本ツールを使用して実習目的を確認する

■ 4.2 実習依頼書から抜粋

医療機関名
院長 ○○ ○○ 様

発信番号
元号 ○ 年 ○ 月 ○ 日

○○○○ 専門学校
学校長 ○○ ○○ 印

医療事務実習についてのお願い

拝啓 ○○の候、貴院益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は本校の専門学校教育に対しまして格別なご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本校では実習目的を記入(例:実社会において即戦力となる人材育成を目的として医療機関実習を行っております等)

つきましては、ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、貴院での医療事務実習を下記のようにお引き受けいただきたくお願い申し上げます。また、お引き受けいただける場合には、「別紙」(実施可能な項目にレ印を入れたもの)、承諾書、振込依頼書をご記入の上、返信用封筒にてご返送くださいますようお願い申し上げます。

なお、詳細につきましては、後日担当よりご連絡させていただきます。

敬 具

記

実習費がある場合のみ

ツール名	4.4 実習概要確認書
ツールの概要説明	医療機関と学校の両者間で、実習の概要（実習日時、実習生氏名、実習内容他）を書面で確認・情報提供を行う際に、本ツールを使用する
ツールの構成及び内容	実習期間、実習時間、実習生氏名、実習内容、その他の事項、学校連絡先
プレイヤーの関わり	学校→医療機関 *実習概要を確認し、学生自身が医療機関へ持参の場合あり
利用方法	①学校は、医療機関からの実習受入承諾を確認後、実習生個人票を同封し、医療機関に郵送（又は学生自身が持参）する *実習費が発生する場合は、振込依頼書についても同封（又は持参） ②医療機関は、内容を確認し、必要事項を記載し、学校に返信をする
留意点	・学校担当者は、実習期間、実習時間、実習学生氏名、緊急連絡先等必要事項を記入して、医療機関に郵送（持参）をする ・医療機関は、実習可能な内容を実習依頼書に記載をする

■ 4.4 実習概要確認書から抜粋

実習概要確認書										
1. 実習期間		元号	年	月	日()	～	元号	年	月	日()
				休診日	_____				(曜日)	
2. 実習時間		平日	時	分	～	時	分			

(2) 役割分担（負担）の明確化

本項目で利用する教育支援ツール

●◆ 実習委託契約書 …… 実習内容の文書確認、実習における双方の役割化

ツール名	4.6 実習委託契約書
ツールの概要説明	医療機関と学校の両者間で、実習内容、実習中の双方の役割の明確化、不測の事態への対処、学生を含めた関係者の禁止事項等を文書にて確認し、契約を行う際に、本ツールを使用する
ツールの構成及び内容	実習期間、実習生氏名、双方の実習における役割、報酬、禁止事項、サービス事項、不足事態の対処、実習解除条件、その他の事項
プレイヤーの関わり	学校→医療機関
利用方法	①学校は2部作成し、医療機関に郵送をする（組織名、住所、代表者名を記入し、代表者印を押印） ②医療機関は内容を確認の上、必要事項を記入押印して、学校に1部返送する ③医療機関、学校双方で保管をする
留意点	・実習概要を確認終了後、概ね実習2週間前までを目途に取り交わす ・学校は、学生に契約内容について説明し、理解した上で実習に臨むように指導を行う

4.6 実習委託契約書から抜粋

第4条	(学校の指導) 乙は学生に対し、本契約書に定める事項を周知するとともに、医療事務実習を円滑に実施するために必要な事前指導および事後指導を行う。
第5条	(医療機関からの指導) 甲は学生が医療事務実習を通して現場の医事業務を学び、学生自身が成長を感じられるよう必要な指導・助言を行う。
	(実習費アリの場合) 乙は甲に対し、医療事務実習委託料として11000円を支払うものとする。
第6条	(報酬・手当) 甲は学生に対し、医療事務実習実施期間中の報酬、および通勤費、食費等の手当は支給しない。
第7条	(機密の保持) 医療事務実習実施期間中、乙の学生が知り得た甲および甲の医療機関内の内部情報および個人情報、現在および将来にわたり、乙を含めて他に一切洩らしてはならない。また乙は、これを学生に遵守するよう指導監督する。
第8条	(服務) 医療事務実習実施期間中、学生は甲の担当者の指示に従うとともに、あらかじめ甲の指定する所定の勤務時間を遵守する。また甲の信用を傷つけるなど業務に支障をきたすような行為を行ってはならない。
	(本人提出の場合)

(3) 学生に対する報酬・知的財産の帰属

本項目で利用する教育支援ツール

●◆ 実習委託契約書 …… 実習内容の確認 (実習費が発生する場合はその旨も含む)

ツール名	4.6 実習委託契約書
ツールの概要説明	3.3 (2) 参照
ツールの構成及び内容	
プレーヤーの関わり	
利用方法・留意点	

4.6 実習委託契約書から抜粋

第5条	(医療機関からの指導) 甲は学生が医療事務実習を通して現場の医事業務を学び、学生自身が成長を感じられるよう必要な指導・助言を行う。
	(実習費アリの場合) 乙は甲に対し、医療事務実習委託料として11000円を支払うものとする。
第6条	(報酬・手当) 甲は学生に対し、医療事務実習実施期間中の報酬、および通勤費、食費等の手当は支給しない。

(4) 実施上の協定・契約の締結

本項目で利用する教育支援ツール

- ◆ 実習受入承諾書 …………… 実習先からの実習受入の承諾、内容確認
- ◆ 実習委託契約書 …………… 実習期間内の不測の事態への対処、双方の禁止条項

ツール名	4.3 実習受入承諾書
ツールの概要説明	医療機関と学校の両者間で、実習中の詳細内容を取り交わし、確認を行う、併せて学生の実習内容理解をはかる際に使用する
ツールの構成及び内容	実習期間、時間、担当者、受入れ条件
プレーヤーの関わり	医療機関→学校
利用方法・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね実習1か月半～1か月前を目途に取り交わす ・学校は、学生に実習内容について理解をはかり、実習に臨むように指導を行う

■ 4.3 実習受入承諾書から抜粋

実 習 受 入 承 諾 書

下記内容により実習受け入れを承諾いたします。

記

1. 実習期間 元号 年 月 日 ～ 元号 年 月 日 (名)

ツール名	4.6 実習委託契約書
ツールの概要説明	3.3 (2) 参照
ツールの構成及び内容	
プレーヤーの関わり	
利用方法・留意点	

(5) リスクマネジメント

本項目で利用する教育支援ツール

- ◆ 実習委託契約書 …………… 実習期間内の不測の事態への対処、双方の禁止条項
- ◆ 誓約書 …………… 実習時の遵守項目、禁止事項等の明示及び確認

ツール名	4.6 実習委託契約書
ツールの概要説明	3.3 (2) 参照
ツールの構成及び内容	
プレーヤーの関わり	
利用方法・留意点	

■ 4.6 実習委託契約書から抜粋

第10条 (事故等)	医療事務実習中及びその実習先への通学途中に生じた事故により身体に障害を被った場合、乙が指定し学生が加入する障害保険により対応する。
第11条 (賠償)	医療事務実習中及びその往復途中に甲ならびに他人に怪我をさせたり、他人の財物を損壊するなど損害を与えた場合、乙が指定し学生が加入する賠償責任保険により保証する。
第12条 (契約の解除)	実習生として相応しくない行為があった場合、甲は医療事務実習を停止するか、もしくは本契約を解除または変更することができる。
第13条 (その他)	本契約書に定めのない事項、又は疑義が生じた場合はその都度甲乙協議して決定する。

ツール名	4.7 誓約書
ツールの概要説明	学生及びその保護者に対して実習時の遵守項目、禁止事項等を明示、確認をする際に、本ツールを使用する
ツールの構成及び内容	実習期間中の遵守事項及び禁止事項、学生及び保護者の記名押印
プレイヤーの関わり	学校 → 学生及び保護者 → 学校 → 医療機関 (説明) (確認)
利用方法	①学校より学生に配布・説明をする ②学生及び保護者の記名・押印の上、学校に提出をする ③学校で取りまとめ、医療機関へ郵送(又は持参)
留意点	・配布時に、学生に適切な指導を行うとともに、家庭内において保護者と実習意義、目的の確認を行った上での提出を促す ・医療機関仕様の誓約書提出の場合もある

■ 4.7 誓約書から抜粋

<p>貴院における医療事務実習にあたり、下記の事項を厳守する事を誓います。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 貴院の実習担当責任者の指揮及び監督に従います。 2. 本実習実施期間中の報酬、および通信費、食費等の手当は受け取りません。 3. 貴院の内部情報や患者様の個人情報に関することを、実習期間終了といえども一切他言しません。(SNS含む) 4. 就業規則、その他の諸規則を固く守ります。 5. 業務の都合上、実習時間及び実習日の変更がある場合にも、これに従います。

3.4 デュアル教育の実施 (Do)

(1) 受入企業等の開拓

本項目で利用する教育支援ツール

- ◆ 実習依頼書 …………… 実習受入れ可否と実習内容の確認
- ◆ 実習概要確認書 …………… 実習内容の確認

ツール名	4.2 実習依頼書
ツールの概要説明	3.3 (1) 参照
ツールの構成及び内容	
プレーヤーの関わり	
利用方法・留意点	

ツール名	4.4 実習概要確認書
ツールの概要説明	3.3 (1) 参照
ツールの構成及び内容	
プレーヤーの関わり	
利用方法・留意点	

※ 別冊として添付される「実習先開拓ツール」(医療事務実習生受入れのお願い)を活用する

(2) 希望学生と受入企業等のマッチング

本項目で利用する教育支援ツール

- ◆ 実習生個人票 …………… 実習先に対しての実習学生の個人情報の提示
- ◆ 業務補助型実習事前学習状況チェック表【学生用】【教員用】、業務補助型実習事前学習状況
- ◆ 体験型実習事前学習状況チェック表【学生用】【教員用】

ツール名	4.5 実習生個人票
ツールの概要説明	医療機関に対して、学生の情報を提示することにより、特性等理解を図る目的で、本ツールを使用する
ツールの構成及び内容	【所属】 学校名、学科、学年、クラス、学籍番号 【氏名等】 学生氏名、生年月日、性別、現住所、連絡先 【学生生活】 得意科目、取得資格、学業以外の活動、実習目標 【その他】 学歴、職歴、健康状態、趣味、特技、課外活動、自己PR 【添付物】 本人写真、成績表
プレーヤーの関わり	学校 → 学生 → 学校 → 医療機関 (説明) (記入)

利用方法	①学校より学生に配布・説明をする ②学生は漏れのないように記入をし、学校に提出をする ③学校で取りまとめ、実習概要確認書等と併せて、医療機関に郵送（又は学生自身が持参）をする ④医療機関は、内容を確認し、実習中の学生指導に役立てるように担当者間で情報共有を行う
留意点	・学校側は、必要に応じて、学生に適宜助言を行い、実習内容の理解を深めるように努める

■ 4.5 実習生個人票から抜粋

実習生個人票		
		年 月 日現在
学 校 名		写 真 (3.5×4.5)
学 科 ・ 学 年	科 コース 年生	
学 籍 番 号		

ツール名	4.1-① 業務補助型実習事前学習状況チェック表【学生用】 4.1-② 業務補助型実習事前学習状況チェック表【教員用】 4.1-③ 業務補助型実習事前学習状況 4.1-④ 体験型実習事前学習状況チェック表【学生用】 4.1-⑤ 体験型実習事前学習状況チェック表【教員用】
ツールの概要説明	実習前に、学生は自身が学習した内容について整理確認をする。 教員はカリキュラムに基づいて学生が学習している状況を客観的に整理する。以上をまとめ、医療機関と学校の学習状況を情報共有することにより、専修学校での学習と医療機関での実習を、より連続性を持った効果的なものとしていくために、本ツールを使用する
ツールの構成及び内容	【学生用】 医療保険、診療報酬請求事務、業界理解、臨床医学、接遇・マナー、その他
プレイヤーの関わり	学校 → 学生 → 学校 → 医療機関 (説明) (記入)
利用方法	①学生が自身の理解度を確認しながら記入をする ②教員がカリキュラムに基づいて、学生が学習している状況を記入する ③実習生学習状況(カリキュラム)を記入する
留意点	・①～③の使用は、学校の状況に応じて、適宜選択するものである

4.1-① 業務補助型実習事前学習状況チェック表【学生用】から抜粋

業務補助型実習事前学習状況チェック表【学生用】			[4.1-①]
学校名		記入日：元号 年 月 日	
実施期間 (年 月 日 ~ 年 月 日)		氏名	
業務補助型実習を行う前に、学習科目ごとに学習状況の自己評価を行ってください。 学習達成状況を良く読んで、到達度欄に[○、△、×]を記入してください。 【1人で行うことができると思う場合は○ 参考文献を見たり、助言を得て行うことができると思う場合は△ 全く行うことができない場合は×】			
科目	項目	学習達成状況	到達度
医療保険	医療保険制度概要	医療保険全般(医療保険、後期高齢者医療制度)のそれぞれの特徴について理解し、説明することができる	
	保険診療の流れ	保険診療の流れ、保険者・審査支払機関との関係について理解し、説明することができる	
	職域保険(社保)	保険者番号、被保険者の記号・番号、本人・家族の種別等について理解し、職域保険被保険者証から確認することができる	
	地域保険(国民健康保険)	保険者番号、被保険者の記号・番号について理解し、国民健康保険被保険者証から確認することができる	
	後期高齢者医療制度	保険者番号、被保険者番号、負担割合について理解し、後期高齢者医療被保険者証から確認することができる	
	公費負担医療制度概要	公費負担医療制度のそれぞれの特徴について理解し、説明することができる	
生活保護法	公費対象者、医療費助成内容、申請の流れを理解し、医療券から、法別番号、公費負担者番号、受給者番号を確認することができる		

4.1-② 業務補助型実習事前学習状況チェック表【教員用】から抜粋

業務補助型実習事前学習状況チェック表【教員用】			[4.1-②]	
学校名		記入日：元号 年 月 日		
実施期間 (年 月 日 ~ 年 月 日)		氏名		
業務補助型実習前の学生の学習状況となります。 到達度欄に記載された[○、△、×]は、次の基準で記載をしています。 【1人で行うことができると思う場合は○ 参考文献を見たり、助言を得て行うことができると思う場合は△ 全く行うことができない場合は×】 実施していない項目については、実施欄に×を記載しています。				
科目	項目	学習達成状況	到達度	実施
医療保険	医療保険制度概要	医療保険全般(医療保険、後期高齢者医療制度)のそれぞれの特徴について理解し、説明することができる		
	保険診療の流れ	保険診療の流れ、保険者・審査支払機関との関係について理解し、説明することができる		
	職域保険(社保)	保険者番号、被保険者の記号・番号、本人・家族の種別等について理解し、職域保険被保険者証から確認することができる		
	地域保険(国民健康保険)	保険者番号、被保険者の記号・番号について理解し、国民健康保険被保険者証から確認することができる		
	後期高齢者医療制度	保険者番号、被保険者番号、負担割合について理解し、後期高齢者医療被保険者証から確認することができる		
	公費負担医療制度概要	公費負担医療制度のそれぞれの特徴について理解し、説明することができる		
生活保護法	公費対象者、医療費助成内容、申請の流れを理解し、医療券から、法別番号、公費負担者番号、受給者番号を確認することができる			

(3) 学生の受入体制準備

本項目で利用する教育支援ツール

- ◆ 病院実習スケジュール……実習期間中の内容等受入体制を明示したスケジュール

ツール名	4.15-① 実習スケジュール【病院】 4.15-② 実習スケジュール【診療所】
ツールの概要説明	実習期間中の部門、実習内容、担当者等を医療機関に事前に提示してもらい、学生自身が実習への取り組み準備を進める、また医療機関の受入体制を関係部門間で情報共有等を行う際に、本ツールを使用する *本ツールは、学校から医療機関へ提案するスケジュール(案)の形式となっている
ツールの構成及び内容	時系列に沿って、実習部門、担当者、予定されている実習内容
プレイヤーの関わり	(学校) → 医療機関 → 学校 → 学生 (提示) (確認) ・事前に学校から過去の実習例やモデルケースを提案する場合あり
利用方法	①医療機関は、実習部門・担当者・内容等を調整する ②医療機関から、学校に提示する ③学校は、学生に実習内容を周知する
留意点	・学校は、必要に応じて、学生に適宜助言を行い、実習内容の理解を深めるように努める

4.15-① 実習スケジュール【病院】から抜粋

実習スケジュール【病院】		[4.15-①]										
実習スケジュールのモデルケースを希望される実習医療機関様のご要望にお応えし、作成しております。医療機関様の状況等によって異なりますので、参考までにご覧ください。												
		1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目	
1週目～ 実習内容	午前	オリエンテーション ・院内見学 ・事務系スタッフの業務紹介 ・受付の流れを見学 ・外来患者様のお出迎え	受付対応 ・診察券、保険証預かり ・処方箋対応 ・外来患者様のお出迎え ・新患登録	各種外来① ・クラーク業務見学 ・診察室内業務補助	各種外来① ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助	各種外来① ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助	各種外来① ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助 ・入力業務補助	各種外来① ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助 ・入力業務補助	各種外来① ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助 ・入力業務補助	各種外来① ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助 ・入力業務補助	各種外来① ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助 ・入力業務補助	各種外来① ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助 ・入力業務補助
	午後	受付対応 ・診察券、保険証預かり ・処方箋対応 ・外来患者様のお出迎え	受付対応 ・診察券、保険証預かり ・処方箋対応 ・外来患者様のお出迎え ・新患登録	各種外来① ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助	各種外来① ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助	各種外来① ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助	各種外来① ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助 ・入力業務補助	各種外来① ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助 ・入力業務補助	各種外来① ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助 ・入力業務補助	各種外来① ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助 ・入力業務補助	各種外来① ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助 ・入力業務補助	各種外来① ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助 ・入力業務補助
2週目～ 実習内容	午前	各種外来② ・クラーク業務見学 ・診察室内業務補助	各種外来② ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助	各種外来② ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助 ・入力業務補助	各種外来② ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助 ・入力業務補助	各種外来② ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助 ・入力業務補助	各種外来② ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助 ・入力業務補助	各種外来② ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助 ・入力業務補助	各種外来② ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助 ・入力業務補助	各種外来② ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助 ・入力業務補助	各種外来② ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助 ・入力業務補助	
	午後	各種外来② ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助	各種外来② ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助 ・入力業務補助	各種外来② ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助 ・入力業務補助	各種外来② ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助 ・入力業務補助	各種外来② ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助 ・入力業務補助	各種外来② ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助 ・入力業務補助	各種外来② ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助 ・入力業務補助	各種外来② ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助 ・入力業務補助	各種外来② ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助 ・入力業務補助	各種外来② ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助 ・入力業務補助	
3週目～ 実習内容	午前	病棟クラーク業務 ・データ入力補助 ・伝票整理 ・入退院業務補助 ・遠隔時会計補助	外来医事会計業務 ・受付業務の補助 ・会計伝票チェック ・領収書チェック ・入力業務補助 ・金銭授受	病棟クラーク業務 ・データ入力補助 ・伝票整理 ・入退院業務補助 ・遠隔時会計補助	外来医事会計業務 ・受付業務の補助 ・会計伝票チェック ・領収書チェック ・入力業務補助 ・金銭授受	病棟クラーク業務 ・データ入力補助 ・伝票整理 ・入退院業務補助 ・遠隔時会計補助	外来医事会計業務 ・受付業務の補助 ・会計伝票チェック ・領収書チェック ・入力業務補助 ・金銭授受	病棟クラーク業務 ・データ入力補助 ・伝票整理 ・入退院業務補助 ・遠隔時会計補助	外来医事会計業務 ・受付業務の補助 ・会計伝票チェック ・領収書チェック ・入力業務補助 ・金銭授受	病棟クラーク業務 ・データ入力補助 ・伝票整理 ・入退院業務補助 ・遠隔時会計補助	外来医事会計業務 ・受付業務の補助 ・会計伝票チェック ・領収書チェック ・入力業務補助 ・金銭授受	
	午後	病棟クラーク業務 ・データ入力補助 ・伝票整理 ・入退院業務補助 ・遠隔時会計補助	外来医事会計業務 ・受付業務の補助 ・会計伝票チェック ・領収書チェック ・入力業務補助 ・金銭授受	病棟クラーク業務 ・データ入力補助 ・伝票整理 ・入退院業務補助 ・遠隔時会計補助	外来医事会計業務 ・受付業務の補助 ・会計伝票チェック ・領収書チェック ・入力業務補助 ・金銭授受	病棟クラーク業務 ・データ入力補助 ・伝票整理 ・入退院業務補助 ・遠隔時会計補助	外来医事会計業務 ・受付業務の補助 ・会計伝票チェック ・領収書チェック ・入力業務補助 ・金銭授受	病棟クラーク業務 ・データ入力補助 ・伝票整理 ・入退院業務補助 ・遠隔時会計補助	外来医事会計業務 ・受付業務の補助 ・会計伝票チェック ・領収書チェック ・入力業務補助 ・金銭授受	病棟クラーク業務 ・データ入力補助 ・伝票整理 ・入退院業務補助 ・遠隔時会計補助	外来医事会計業務 ・受付業務の補助 ・会計伝票チェック ・領収書チェック ・入力業務補助 ・金銭授受	

(4) 医療機関内実習

本項目で利用する教育支援ツール

- 病院実習スケジュール ----- 実習期間中の部門や内容等受入体制を明示したスケジュール

ツール名	4.15-① 実習スケジュール【病院】 4.15-② 実習スケジュール【診療所】
ツールの概要説明	3.4 (3) 参照
ツールの構成及び内容	
プレーヤーの関わり	
利用方法・留意点	

(5) 事前／事後の教育

本項目で利用する教育支援ツール

- ◆ 医療事務実習オリエンテーション資料 …… 目的、概要、心得、事前チェックシート等の明示等
- ◆ 体験型実習事前学習シート …………… 体験型実習前に、実習内容の把握、実習で学びたい内容(着眼点)を整理
- ◆ 実習先概要確認書【学生】…………… 実習に関わる情報の学生自身による整理確認
- 業務補助型実習事前学習状況チェック表【学生用】【教員用】
- 業務補助型実習事前学習状況
- ◆ 体験型実習事前学習状況チェック表【学生用】【教員用】…………… 実習先に対しての実習学生の学習状況の提示
- ◆ 医療事務実習後の礼状例文 …………… 実習終了後の学生から実習先のへの御礼の表明

ツール名	4.8-① 医療事務実習オリエンテーション資料
ツールの概要説明	実習目的・実習概要・実習における心得・実習に関する書類他
ツールの構成及び内容	医療事務実習の概要、実習の準備と心構え、チェックシート
プレーヤーの関わり	学校⇄学生
利用方法	①学校が、実習オリエンテーション時に、学生に明示及び読み合わせを行い、実習に関する内容について、周知確認を行う ②①で確認した内容について、学生の理解が不十分な点、不安に感じている点などの指導を行う
留意点	・同時に、実習先概要確認書【学生】を記入させ、具体的な実習先の理解について確認する

■ 4.8-① 医療事務実習オリエンテーション資料から抜粋

<p>II 医療事務実習の準備と心構え</p> <p>1、誓約書などの書類提出</p> <p>(1) 実習前に提出する書類がある場合は、期限に余裕をもって提出すること。</p> <p>(2) しわ、しみがつかないように気をつける。できれば、クリアファイルに入れて出すのが望ましい。</p> <p>(3) 印鑑は丁寧に押印する。(かすれたり、曲がったりしないよう)</p>	
---	--

ツール名	4.8-② 体験型実習事前学習シート
ツールの概要説明	体験型実習前に、実習内容の把握、実習で学びたい内容(着眼点)を整理するシート
ツールの構成及び内容	実習内容の把握、実習で学びたい内容(着眼点)
プレーヤーの関わり	学校⇄学生

利用方法	①学校が、実習概要書をもとに、学生の体験実習に関する理解を深め、周知確認を行う ②①で確認した内容をもとに、学生が実習中、確認したい点、学びたい点(着眼点)を設定し、主体的な学びの導入とする
留意点	・着眼点の設定が困難な学生に対しては、グループワークや個別指導など行う

■ 4.8-② 体験型実習事前学習シートから抜粋

体験型実習事前学習シート	
	氏名 _____
1. 実習先医療機関名	_____
2. 所在地	_____
3. 実習日時	元号 _____ 年 _____ 月 _____ 日() ~ 元号 _____ 年 _____ 月 _____ 日()
4. 実習内容	* 実習概要を確認して記入しましょう

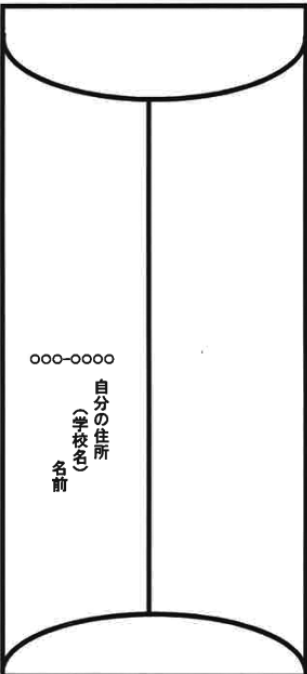
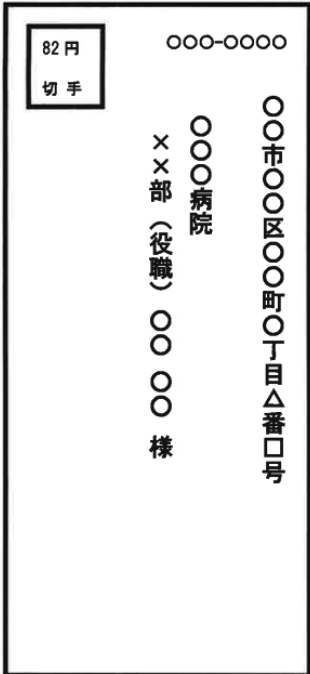
ツール名	4.9 実習先概要確認書【学生】
ツールの概要説明	実習の概要を学生が把握し、主体的に実習参加をするために、本ツールを使用する
ツールの構成及び内容	実習期間、実習内容、服装、持参品、その他の事項
プレーヤーの関わり	学校→学生
利用方法	①学校は、医療機関から送付された実習概要確認書をもとに、学生が実習に関する内容を把握できるよう確認を行う ②学生は、内容を確認し、不明点については、指導者に指導を仰ぐ
留意点	・学生の理解が深まるように、指導を行う

■ 4.9 実習先概要確認書【学生】から抜粋

実習ご担当者	部署・役職名 _____ 氏名 _____
実習期間	元号 _____ 年 _____ 月 _____ 日() ~ _____ 年 _____ 月 _____ 日()
実習時間	_____ 時 _____ 分 ~ _____ 時 _____ 分 _____ 時 _____ 分 ~ _____ 時 _____ 分
休日	
実習内容	
服装	通勤時： 勤務時： 履物：
持参品	弁当： 要・不要 その他：
通勤方法	

ツール名	4.12 医療事務実習後の礼状例文
ツールの概要説明	実習終了後の学生から医療機関へお礼と学習成果の報告表明を行う際に、本ツールを使用する
ツールの構成及び内容	礼状サンプル、封書サンプル
プレーヤーの関わり	学生(学校) → 医療機関
利用方法	①礼状サンプルを参考にして、医療機関に礼状を作成する ②学生から医療機関に郵送をする
留意点	・サンプルはあくまでひな形であるため、学生自身の感想、医療機関、担当者への謝辞を礼状内に含ませる

4.12 医療事務実習後の礼状例文から抜粋

 <p style="text-align: center;">000-0000 自分の住所 (学校名) 名前</p>	 <p style="text-align: center;">82円 切手</p> <p style="text-align: center;">000-0000 〇〇〇病院 〇〇〇様</p> <p style="text-align: center;">〇〇市〇〇区〇〇町〇〇丁目△番□号</p>
××部(役職) 〇〇〇〇様	
<p>【チェックポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・封筒は白封筒で送りましょう。 ・水性ボールペンで書きましょう。 ・お礼状の用紙が1枚で完結した場合でも2枚(1枚は白紙)の便せんを重ねて送るのがマナーです。 ・重さにより切手の値段が変わります。(25gまで82円、50gまで92円) 	

(6) 実習中の学生指導方法・体制

本項目で利用する教育支援ツール

- ◆ 医療事務実習日誌 実習時の実習内容記録、学んだ内容、目標設定の記録
- ◆ 医療事務実習 巡回記録 実習中における実習学生の状況把握と情報共有
- ◆ 体験型実習の記録 体験型実習時の記録、気づいたこと、うれしかったことなど

ツール名	4.10-① 医療事務実習日誌 4.10-② 体験型実習の記録
ツールの概要説明	実習中の実習内容の記録、学んだ内容、翌日への目標設定を記録する際に、本ツールを使用する
ツールの構成及び内容	1日の実習内容の記録(出来たこと、本日の目標に対して、明日の目標設定、基本行動の振り返り)、学習内容のまとめ、実習を終えて、実習期間中の出欠表
プレイヤーの関わり	学校 → 学生 → 医療機関 → 学生 → 学校 (記入) (担当者確認) (最終保管)
利用方法	①学校から学生に配布 ②学生は、実習期間中毎日必要事項を記入し、実習担当者に提出をし、確認をしてもらう ③学校側は、実習巡回時に内容を確認する ④実習終了後は、学校保管とする
留意点	・学生は、実習担当者のコメントを事後の実習に生かすように努める ・学校は、実習巡回時に確認した内容を、学生指導の材料とする

■ 4.10-① 医療事務実習日誌から抜粋

医療事務実習の記録	
実習生氏名	
年 月 日 ()	実習部署 実習診療科
今日の目標	
8:15	朝礼 ・本日の業務確認 窓口を開ける
8:30	・外来受付開始(保険証、診察券処理)
9:00	・新規患者登録 ・外来個人フォルダの準備 ・受付にて患者対応(新患 再来受付) ・入院手続き、カルテ整理など

ツール名	4.11 医療事務実習 巡回記録
ツールの概要説明	実習中に医療機関を巡回し、学生の実習状況を把握、また医療機関の情報（就職情報等）の収集をする際に、本ツールを使用する
ツールの構成及び内容	巡回担当者、巡回日時、巡回実習先、医療機関面談者、実習学生氏名、実習状況、就職等の情報、その他特記事項
プレーヤーの関わり	学校 → 医療機関
利用方法	<p>①学校と医療機関間で、実習期間中に医療機関訪問日時を相談決定する（双方の状況によっては、アポイントメント無しでの訪問の場合あり）</p> <p>②医療機関担当者と学校担当で面談を行い、実習状況について、情報共有を行う（学生が同席の場合あり）</p> <p>③学生と学校担当で面談を行い、実習状況についてヒアリングを行い、適宜必要な指導、励ましを行う</p>
留意点	・学校側は、実習巡回時に確認した内容を、学生指導の材料とする

■ 4.11 医療事務実習巡回記録から抜粋

元号					年度		医療事務実習		巡回記録	
巡回担当者				巡回日時	月	日	曜日	:		
巡回実習先										
面談者	部署/役職				氏名					
実習生名										
実習生の状況										
挨拶・言葉遣い										
<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない		コメント								

(7) 学生の評価

本項目で利用する教育支援ツール

- 業務補助型実習評価表【医療機関用】【学生用】… 実習先からの実習学生の評価、実習学生の評価
- 業務補助型実習評価総括表 … 業務補助型実習評価表【医療機関用】と【学生用】をまとめ、課題発見、今後の目標設定を行う
- 業務補助型実習のまとめ … 実習学生のまとめ
- ◆ 体験型実習のまとめ … 実習学生のまとめ

ツール名	<p>4.14-① 業務補助型実習評価表【医療機関用】</p> <p>4.14-② 業務補助型実習評価表【学生用】</p> <p>4.14-③ 業務補助型実習評価総括表</p> <p>4.13-① 業務補助型実習のまとめ</p> <p>4.13-② 体験型実習のまとめ</p>
ツールの概要説明	<p>業務補助型実習の取り組みを、実習者である学生と指導担当である医療機関が、同内容の評価を行う。自己評価と他者評価の差異を比較検討し、実習の達成内容と課題を学生自身が発見し、実習後の学習を効果的なものにするために、本ツールを使用する</p> <p>体験型実習の取り組みにおいては、実習者である学生が実習前に作成した学習の着眼点に基づいて、体験型実習のまとめを行う</p>
ツールの構成及び内容	実習評価表【学生用】、実習評価表【医療機関用】、実習評価総括表
プレイヤーの関わり	<p>学校 → 医療機関 → 学校 } 学生</p> <p>→ 学生</p>
利用方法	<p>【業務補助型実習】</p> <p>①学生は、実習評価表【学生用】を実習の振り返りをしながら記入する</p> <p>②医療機関は、実習評価表【医療機関用】を記入する</p> <p>③①②を用いて、両者の評価の違いや近似している点をとらえ、原因や克服の手段を検討する</p> <p>【体験型実習】</p> <p>①学生は、体験型実習事前学習シート、体験型実習の記録を確認しながら、体験型実習のまとめを記入する</p> <p>②学校の指導担当者は、実習において実習者が獲得した内容において、適宜ヒアリングを行いながら、実習評価を行うとともに、今後の学習に活用をする</p>
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ ①②を記入する際に、実習評価基準を用いて段階的評価を行うとともに、記述により所感を記入する

4.14-① 業務補助型実習評価表【医療機関用】から抜粋

業務補助型実習評価表【医療機関用】		記入日: 元号 年 月 日 ご記入者名: _____	【4.14-①】	
医療機関名: _____		学科名: _____		
学校名: _____		氏名: _____		
実習期間(年 月 日 ~ 年 月 日)				
実習期間中の実習学生評価のご記入をお願いいたします。 下表右の評価基準に照らして、1～3を評価欄にご記入下さい。 お手数ですが所感欄に、学生の実習意欲、態度等で特に評価いただける点などご記入をお願いいたします。 未実施の項目については、評価欄に斜線をご記入下さい。				
項目	評価欄	評価基準		
		1	2	3
コミュニケーション ・患者に対して、コミュニケーションを図ることができる ・職員に対して、コミュニケーションを図ることができる		・相手の目を見ながら対応することが不十分である ・相手に伝えるべき内容を伝えることが不十分である	・相手の目を見ながら、対応することができる ・相手に伝えるべき内容を伝えることができる	・相手の目を見ながら、笑顔で対応することができる ・相手に伝えるべき内容を自分から積極的に伝えることができる
職業意識 ・業務指示に対して、対応することができる ・不明点について確認をしながら進めることができる		・指示内容の理解が不十分なまま、業務を行っている ・終了時の報告が不十分である	・指示内容を聞き、業務を行うことができる ・指示業務の終了時に、報告を行うことができる	・指示内容を丁寧に聞き、メモ、確認を行ってから、業務を行うことができる ・指示業務が終了したら、相手が理解しやすい報告を行うことができる

4.13-② 体験型実習のまとめから抜粋

記入例	<h2 style="margin: 0;">体験型実習のまとめ①</h2> <p style="margin: 0;">氏名 _____</p>
	<p>① 受付、患者対応業務で着眼点とした内容を記入しましょう。</p> <p>・受付手順をしっかりと確認したい。</p> <p>・初めて来院された患者さんから質問された時の、対応の仕方等を確認したい。</p>

3.5 デュアル教育の評価 (See)

(1) プログラムの評価方法

本項目で利用する教育支援ツール

- ◆ 医療事務実習プログラムアンケート …… 業務補助型実習プログラム全体についての評価

ツール名	4.16 医療事務実習プログラムアンケート
ツールの概要説明	業務補助型実習・体験型のプログラム全体を、評価検討し、次年度の実習プログラムの改善のために、本ツールを使用する
ツールの構成及び内容	依頼文、実習受入に関するアンケート
プレーヤーの関わり	学校 → 医療機関
利用方法	①学校から、医療機関に依頼文とアンケートを郵送をする ②医療機関は、アンケート、医療機関名、記入者名を記入し、学校に郵送をする
留意点	・学校は、医療機関訪問時に本ツールの使用目的等を説明し、医療機関に理解を得るようにする

■ 4.16 医療事務実習プログラムアンケートから抜粋

◇医療事務実習受入に関するアンケート

次の①～④の設問について、当てはまるものの回答欄に○をつけて下さい。
1以外に○をつけた設問については、コメント欄に具体案をご記入下さい。

①実習の依頼時期は適切でしたか

	項目	回答欄	コメント欄
1	適切だった		適切と思われる理由等ご記入下さい

(2) プログラムの改善方法

本項目で利用する教育支援ツール

- 実習プログラム改善シート …… 業務補助型実習プログラム課題の検討と改善策の明確化

ツール名	4.17 実習プログラム改善シート
ツールの概要説明	業務補助型実習のプログラム全体の課題について検討し、次年度実施する際の改善案を明らかにするために、本ツールを使用する
ツールの構成及び内容	今年度の取り組み、次年度改善案
プレーヤーの関わり	(医療機関) } → 学校 (集約) (学生)
利用方法	①学校は、今年度の実習の取り組みや医療機関からの実習プログラムアンケート等も考慮して、今年度課題を洗い出し、シートに記入する ②①で洗い出した項目から、次年度改善項目(案)を理由、変更に伴って想定される事項を記入する
留意点	・本ツールは、改善のための学科会議、担当者会議の補助ツールとしての使用を想定するものである

4.17 実習プログラム改善シートから抜粋

実習プログラム改善シート(記入例)		【 体験型 ・ 業務補助型 】	
		作成日	元号 月 日
		作成者	
●今年度実習の取り組み			
1. 実習前		●年度(今年度)実績	
実習先選定	開始月	11月	開始は例年通りの開始。学生の実習希望が新規医療機関多数のため全員決定が2月となる
	完了日	2月	
書類送付	開始月	月	次年度プログラム変更の検討が必要な問題点等を記入
	完了日	月	
書類返送	完了日	月	* 医療機関からの書類完了日を記入します
事前学習	* 実習前学習で気づいたこと、問題点等記入します		
2. 実習中		コメント欄	
実習巡回	* 巡回記録から特筆すべきことを記入します		
実習ノート	●●病院様から学生の実習日誌記入についてご指摘あり(他複数からも) →次年度事前学習項目として検討		

4 教育支援ツール

4.1 ツール名

- ① 業務補助型実習事前学習状況チェック表【学生用】
- ② 業務補助型実習事前学習状況チェック表【教員用】
- ③ 業務補助型実習事前学習状況
- ④ 体験型実習事前学習状況チェック表【学生用】
- ⑤ 体験型実習事前学習状況チェック表【教員用】

4.1.1 利用目的

体験型・業務補助型実習前に、学生自身が、専門学校において学んだ項目と内容を確認し、実習先医療機関との情報共有を行うことにより、学習と実習をより連続性を持った効果的なものにしていくものである

4.1.2 構成・内容

教員用1部、学生用1部。それぞれ医療保険(16項目)、診療報酬請求事務(10項目)、業界理解(3項目)、臨床医学(10項目)、接遇・マナー(3項目)、その他(2項目)のジャンルから構成

4.1.3 利用方法

- ① 業務補助型事前学習状況チェック表【学生用】を、学生が自身の理解度を確認しながら記入
 - ② 業務補助型実習事前学習状況チェック表【教員用】を、カリキュラムベースで教員が記入
- ①②をもとに、実習先医療機関提出用の③実習生学習状況(学生記入)と④実習生学習状況(カリキュラム)を記入します。③については、学生自身がアピールしたい内容や実習中に頑張りたい内容を記入

4.2 ツール名：実習依頼書

4.2.1 利用目的

実習実施候補先に対して、実習の可否の確認および実習先における実習内容の確認

4.2.2 構成・内容

実習の可否の確認、実習期間、受け入れ人数、実習内容の確認

※同封書類：別紙 実習内容確認書、実習受入承諾書、返信用封筒

※実習に関して実習先に支払う実習費が発生する場合は振込依頼書を同封する

4.2.3 利用方法

使用タイミング：実習前遅くとも2か月前

使用対象：学校にて作成した依頼書を実習先へ発信

利用方法：学生持参または学校からの郵送

4.3 ツール名：実習受入承諾書

4.3.1 利用目的

実習先からの実習受入の承諾確認

4.3.2 構成・内容

実習期間、実習時間、実習担当者、受け入れ条件、要望

4.3.3 利用方法

使用タイミング：実習依頼書発信時に同封

使用対象：実習先にて記入、学校へ返信

利用方法：実習依頼時に同封した返信用封筒にて学校へ郵送
返信回収についてはおおむね40日位前を想定する

4.4 ツール名：実習概要確認書

4.4.1 利用目的

これまでの実習先との連絡で確定した実習の概要を書面で実習先に確認する。また、実習生に関しての情報提供

4.4.2 構成・内容

実習期間、実習時間、実習生名、実習内容、その他連絡事項、学校側連絡先
※個人票の添付

4.4.3 利用方法

使用タイミング：実習内容と実習生の確定時（実習実施の概ね1ヶ月前）

使用対象：学校にて作成し、実習先へ発信

利用方法：実習先へ郵送もしくは持参

4.5 ツール名：実習生個人票

4.5.1 利用目的

実習先に対しての、実習学生の個人情報の提示をし、実習生の理解を求める

4.5.2 構成・内容

実習生写真、学校名、学年・クラス、学籍番号、氏名、生年月日、性別、現住所、携帯電話等連絡先、学歴・職歴、運転免許、得意科目、健康状態、趣味・特技、課外活動、自己PR、実習目標、アクセス
※成績表の添付（履修科目・取得検定の明示）

4.5.3 利用方法

使用タイミング：実習内容確認書(実習先)の送付時に添付(実習実施の概ね1ヶ月前)

使用対象：実習学生が記入し、実習先に発信

利用方法：実習内容確認書(実習先)に添付

4.6 ツール名：実習委託契約書

4.6.1 利用目的

学校・実習先間での実習内容の文書確認、実習における双方の役割の明確化、実習期間内での不測の事態への対処、学生を含めた双方の禁止事項の確認などをお互いに文書にて確認・締結する

4.6.2 構成・内容

実習期間、実習学生、双方の実習における役割、報酬、禁止事項、サービス事項、不測事態の対処、実習解除条件等

4.6.3 利用方法

使用タイミング：実習内容の確認ができた時点、おおむね実習2週間前までに取り交わす

使用対象：学校・実習先双方

利用方法：学校・実習先双方にて、組織名、住所、代表者名の記入、代表者印の押印をした契約書を2部作成し、双方で保管する

4.7 ツール名：誓約書

4.7.1 利用目的

実習学生及び保護者における実習時の遵守項目、禁止事項等の明示確認

4.7.2 構成・内容

実習の遵守事項、禁止事項と、実習学生及び保護者の記名・押印

4.7.3 利用方法

使用タイミング：概ね実習2週間前までに実習先へ発信

使用対象：学校→実習学生(記名・押印)→学校→実習先

利用方法：学校より実習学生へ配布。実習学生及び保護者の記名・押印の上、学校へ提出し、学校で取りまとめた誓約書を実習先へ発信

4.8 ツール名

①医療事務実習オリエンテーション資料

②体験型実習事前学習シート

4.8.1 利用目的

実習目的・実習概要・実習における心得、事前チェックシート等の明示、読み合わせ等を通して実習に対しての様々な確認を行う

4.8.2 構成・内容

医療事務実習の概要、医療事務実習の準備項目と心構え、チェックシート

4.8.3 利用方法

使用タイミング：医療事務実習オリエンテーション時（実習前の概ね1週間前までに実施）

使用対象：実習学生

利用方法：医療事務実習オリエンテーション時に明示及び読み合わせを行い、学生への周知徹底を図る。

また、同時に実習先概要確認書（学生）4.9を記入させ、具体的な実習先の理解を深める

4.9 ツール名：実習先概要確認書（学生）

4.9.1 利用目的

実習学生の実習先に対する理解

4.9.2 構成・内容

実習医療機関名、所在地、診療科目、院長、実習担当者、期間、時間、実習内容、服装、持参品、名札、その他、アクセス

4.9.3 利用方法

使用タイミング：実習オリエンテーション時またはその前後

使用対象：実習学生

利用方法：これまで実習先との間でのコミュニケーションで知り得た情報、または実習先ホームページ等によって収集した情報を実習学生自身の確認のための整理・記載をし、実習に備える

4.10 ツール名

①医療事務実習日誌

②体験型実習の記録

4.10.1 利用目的

実習時の実習内容を記録することで、実習での学習成果を明らかにする。日ごとの目標を明確にし、その達成度を日ごとにチェックすることで実習に対するモチベーション維持の材料とする

4.10.2 構成・内容

今日の目標、実習内容（時系列）、学んだこと、うれしかったこと等、今日の目標達成度、明日の目標、基本行動の振り返り、実習先担当者のコメント

4.10.3 利用方法

使用タイミング：実習期間中

使用対象：学生による記入

利用方法：実習期間中、毎日、必要事項を記入し、実習先担当者に提出し、チェックを受ける。また、学校の実習担当者による巡回時にチェックをし、実習中の学生状況のサポート材料とする

4.11 ツール名：医療事務実習巡回記録

4.11.1 利用目的

実習中における実習学生の状況把握と、実習先の情報収集、実習における課題・問題点の早期発見

4.11.2 構成・内容

巡回実施内容、実習生の状況、実習先の情報、その他

4.11.3 利用方法

使用タイミング：実習期間中

使用対象：学校の実習担当者記入→学校(学科)責任者集約

利用方法：実習期間中に、学校実習担当者による実習先への巡回訪問を行い、その内容を学校の実習担当者がまとめ、学校内での周知材料とする

4.12 ツール名：医療事務実習後の礼状例文

4.12.1 利用目的

実習終了後の学生から実習先への御礼の表明

4.12.2 構成・内容

礼状のサンプル、封書のサンプル

4.12.3 利用方法

使用タイミング：実習終了直後

使用対象：実習学生→実習先

利用方法：礼状サンプルを参考に実習学生直筆により礼状を作成する。サンプルはあくまでもひな形であるので、学生自身による感想、感謝の言葉を礼状内に含ませることが重要

4.13 ツール名

①業務補助型実習のまとめ

②体験型実習のまとめ

4.13.1 利用目的

実習終了後、実習における学びを整理・記録し、今後の学習に向けて課題を抽出

4.13.2 構成・内容

医療事務業務、診療録管理業務、受付業務・医局秘書業務、病棟クラーク業務及び実習全体の感想

4.13.3 利用方法

使用タイミング：実習終了直後

使用対象：実習学生

利用方法：実習日誌を元に、各業務ごとにまとめる

(実習内容に含まれていなかった業務については記入の必要はなし)

4.14 ツール名

①業務補助型実習評価表【医療機関用】

②業務補助型実習評価表【学生用】

③業務補助型実習評価総括表

4.14.1 利用目的

業務補助型実習の取り組みを、学生と実習先が、同内容の評価を行う。

自己の評価と他者の評価の差異点等を比較検討し、達成内容と課題を学生が発見し、次段階の学習に発展させていく

4.14.2 構成・内容

評価表【医療機関用】・【学生用】、自己評価表、実習評価総括表

4.14.3 利用方法

利用タイミング：実習終了直後

使用対象：実習先と学生がそれぞれ記入

利用方法：実習先は、実習終了後、①を学校へ郵送

学生は、学校にて②を記入後、①と比較し、課題の抽出を行う

4.15 ツール名

①実習スケジュール【病院】

②実習スケジュール【診療所】

4.15.1 利用目的

学生の実習の受入準備と実習先の実習受入部門間の情報共有

4.15.2 構成・内容

時系列に沿って、実習部門、担当者、実習予定

4.15.3 利用方法

利用タイミング：実習開始前に実習先が提示、又は学校から実習先に提示

使用対象：実習先、学校にて

利用方法：実習前に実習先から学校に郵送、又は学校から実習先に郵送

4.16 ツール名：医療事務実習プログラムアンケート

4.16.1 利用目的

実習プログラムの実習先の評価を、アンケート形式で得る

4.16.2 構成・内容

依頼文、医療事務実習受入に関するアンケート

4.16.3 利用方法

利用タイミング：実習終了後速やかに

使用対象：実習先にて記入、学校へ郵送

利用方法：実習終了後、学校へ郵送

4.17 ツール名：実習プログラム改善シート

4.17.1 利用目的

実習プログラムの課題を抽出し、以後に実施する実習に向けて、プログラムの改善案を検討する

4.17.2 構成・内容

今年度の取り組み、次年度改善案

4.17.3 利用方法

利用タイミング：医療事務実習プログラムアンケート回収後速やかに

使用対象：学校にて記入、学校にて保管

利用方法：実習の取り組み内容や4.16医療事務実習プログラムアンケートをもとに記入

5 トラブルシューティング

学校職員のための医療事務実習に関するトラブルシューティング

学校内で医療事務実習に携わる職員間で情報共有していただくために、「医療事務実習」実施校を対象として、実習前後や実習中に起こったトラブルや困ったことなどを挙げてもらいました。

トラブルの要因は学生側、学校側、医療機関側とさまざまですが、学生側に要因があるものについては、学生への事前指導の徹底によりある程度回避することが可能であることから、事例として挙げた中から、それらを選出しました。(下表)

さらにいくつか代表的なものを選び、事例の状況や防止策としてどのような事前指導を行っているかをトラブルシューティングとして掲載しました。(下表の網掛け部分)

今後、医療事務実習に取り組む際に、実習前指導の内容に盛り込んだり、トラブル発生時の対応の参考としてお役立てください。

時期	内 容
実習前	実習に向けて学生の意欲が不足している
実習前	実習先をめぐる実習生同士のトラブル
実習前	① ワクチン接種の義務付けへの対応
実習中	実習中の事故(通勤中の交通事故、勤務中の転倒によるケガなど)
実習中	実習中にインフルエンザやノロウイルスの感染
実習中	実習中に実習生の意欲が低下する
実習中	② 実習生の遅刻・欠席(無断欠席)
実習中	③ 実習先指導者からのハラスメント
実習中	実習生による実習先(患者情報、職員情報など)や実習内容に関する情報漏洩
実習中	実習生と実習先職員または患者とのトラブル(態度がよくないなど)
実習中	実習先からの消極的な実習生に対する不満
実習中	実習生のルール違反による実習先からのクレームおよび実習停止要請
実習中	実習中におけるアルバイトの中断
実習中	④ 実習先の所有物(備品・什器など)の破損
実習後	自信を失った学生から医療事務職以外の職種に進路変更の申し出
実習後	実習参加により学生の就職意欲の低下や迷いが生じた
実習中 実習後	⑤ 学生のSNSへの書き込み(病院情報・実習への不満など)
実習後	学生同士(上級生から下級生へ)の情報交換により、実習先を選り好みする

5.1 ワクチン接種の義務付けへの対応

トラブル事例の時期 ▶ **実習前** **実習中** **実習後**

事例の状況

- 実習に際し抗体検査とワクチン接種が必要となり、高額な費用負担が発生した。実習先によっては必要でないため、実習先により費用負担が生じるのは不平等であると保護者からの指摘があった。

類似事例

- ワクチン接種後に抗体が付くまでに期間を要する（約2週間）ため、直前の接種では効果がない。（実習先決定時期を早める必要がある。）
- 抗体が付くまでに期間を要するため、実習先が決まる前にワクチン接種が必要となる。
一般的には麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎の4種が対象となるが、医療機関によってはB型肝炎の抗体検査も必要となるケースがある。B型肝炎の抗体に関してはワクチン接種3回が必要なため6か月程度をかけなければいけないので実習までに抗体を付けることは現実的でない。
- 流行時期や診療科（主に小児科など）によりインフルエンザのワクチン接種も必要となり、費用負担が発生する。
- 時期によってはワクチンの在庫不足によりワクチン接種できないまま実習に臨むことになった。
- ワクチン接種の副反応により体調を崩した。

5.1.1 トラブル防止策（トラブルを回避するために気を付けていること、学生に事前指導していることなど）

【事前指導】

- ・ 実習先によっては抗体検査、ワクチン接種が必要となるため個人負担となることを事前に伝えておく。（抗体を付けておくことは病院で勤務するうえで必要なことなので、就職後に接種する手間が省ける）
- ・ 病院という環境上、ウイルスに接触する機会が多いことを認識し、手洗い、うがいを定期的に行い、感染を防ぐよう気を付ける。（医療人としての自覚をもち行動する）

【起こった場合に備えての事前対策】

- ・ ワクチン接種のリスクや費用負担について説明し、保護者にも同意を得ておく。
- ・ インフルエンザについては希望の取りまとめを行い、学内でワクチン接種を実施することを検討する。

【実習先医療機関との調整および相談】

- ・ 無駄なワクチン接種を控えるために母子手帳から接種状況を確認し、実習先へ受入相談をする。（ただし母子手帳では厳密な抗体価がわからないため実習先によっては母子手帳での確認は認めていないケースもある。）
- ・ B型肝炎は血液感染の危険性がある部署で実習をする場合に必須となるため、医師、看護師の実習では義務化していることが多いが、医療事務の実習では感染を極力避ける業務での実習をお願いする。
- ・ 実習生が体調不良を訴えた場合はすぐに診断をお願いし、感染症に罹患しているかを確認してもらう。

5.1.2 トラブルが発生したときは…

麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、インフルエンザなどに実習生が罹患した場合は、すぐに実習先への報告と隔離措置が必要となる。（受診した医療機関および実習先の指示に従うこと）

また、契約書などでそうしたトラブルが発生したときの対処法や対応方法を事前に決めておくことよ。

5.2 実習生の遅刻・欠席（無断欠席）

トラブル事例の時期 ▶ 実習前 実習中 実習後

事例の状況

- 実習開始時間になっても医療機関側に連絡がないまま、実習生が出勤しなかったため、医療機関側の担当者から学校の担任へ連絡が入った。

類似事例

- 実習生が病欠や受診による遅刻は事後報告で良いと思っていたため、医療機関側に連絡せずに遅刻して行った。（社会人としての意識の欠如）
- 出勤途中に実習生の体調が急に悪化し、医療機関側に欠勤の連絡ができなかった。
- 持病は個人情報だから知らせる必要は無いと思い、指導スタッフに知らせずに実習に臨んでいたが、無理をして勤務していたため、体調が悪化して、実習期間中にもかかわらず実習不可能となった。

5.2.1 トラブル防止策（トラブルを回避するために気を付けていること、学生に事前指導していることなど）

【事前指導】

- ・ 医療機関側、学校側の緊急連絡先を予め確認しておく。
- ・ 無断で遅刻・欠席することによる影響を理解させる。（心配したり迷惑がかかったり）
- ・ 実習が始まってから、体調不良などで欠席することのないように健康面に配慮する。
- ・ 遅刻や欠席の場合は実習開始時間までに医療機関側に必ず連絡する。（できれば学校も）
- ・ 持病で定期的な受診が必要な場合等は、実習オリエンテーション時までにその旨を申し出る。
- ・ 持病を申告するかしないかは、本人の自由意志ではあるが、事前に伝達しておくことで、実習内容や医療機関への受診等に配慮することができる。

【起こった場合に備えての事前対策】

- ・ 緊急連絡先（医療機関・学校）を保護者とも情報共有し、遅刻や欠席をせざるを得ない場合に本人以外からも連絡できるようにしておく。
- ・ 持病を医療機関側に告知せず、実習中に持病が悪化した場合は、実習中止になる可能性があることを本人、保護者に納得してもらう。

5.2.2 トラブルが発生したときは…

事前に決めたトラブルが発生したときの対処法や対応方法に沿って行動する。

医療機関側からの連絡で分かった場合は、学生と連絡をとり所在を確認する。（本人へ電話、SNSで連絡、保護者へ連絡など）

どのような状況で遅刻や欠勤に至ったのか状況を確認する。

学生の自覚の欠如からであれば、無断で遅刻・欠席することによる影響を理解させ、繰り返すことのないように指導する。（実習生の評判＝学校の評判）

5.3 実習先指導者からのハラスメント

トラブル事例の時期 ▶ 実習前 実習中 実習後

事例の状況

- 実習先の医事課主任の男性が実習生を指導する際に、肩に手を置いたり、パソコン画面をのぞき込む際に顔を近づけてきたりして、不快に感じたため学校へ連絡してきた。

類似事例

- 指導スタッフの熱心さを高圧的に指導されたと逆に捉えたため、パワーハラスメントと実習生が受け取り、実習先に出勤したくないと学校の担任に連絡してきた。
- 普段から厳しい指導スタッフが、実習初日の実習生の不用意な言動が引き金となり、通常よりかなり高圧的な態度で指導したため、実習生が泣いてしまった。(実習先担当者からの連絡でわかった。)

5.3.1 トラブル防止策 (トラブルを回避するために気を付けていること、学生に事前指導していることなど)

【事前指導】

- ・ ハラスメントと感じたら、まずは自身に問題(誤解を招く言動等)がないかを考える。心当たりがある場合は、誤解を招かないように言動に気を付ける。
- ・ 当該者(ハラスメントを行うスタッフ)とは、二人きりにならないようにする。
- ・ 当該者の言動に違和感があったり、不快に感じるが多い場合は、まずは学校へ相談する。
- ・ ハラスメント行為が改善されない場合やエスカレートする場合は、学校の担任に報告する。
- ・ 実習生がハラスメントを我慢する必要はないため、当該者に率直に不快であることを伝えてよい。
- ・ 当該者に直接伝えるににくい場合は、他のスタッフに相談する。

【医療機関側への注意喚起】

- ・ 過去に他の医療機関で問題になったハラスメント事例などを伝え、節度ある対応をしてもらうよう依頼する。
- ・ 実習生は若い女性が多いので、肩に触れる、過度に接近する、個人的なことを話題にする、などハラスメントとして誤解を招くような言動には注意してもらうようお願いしておく。(特に指導スタッフが男性の場合)

【起こった場合に備えての事前対策】

- ・ 実習生がすぐに相談できるように、学校指導担当者への連絡先を伝えておく。

5.3.2 トラブルが発生したときは…

まずは、正確に状況把握を行うことが重要である。(実習生の我慢が足りないだけなのか、パワーハラスメントなのか、セクシャルハラスメントなのか、犯罪性はないかなど)

学生・医療機関側の双方から事情を聞くことが望ましいが、ハラスメントを行っている側は自覚がないことが多いので、受けている側(=実習生)から、何を言われ、何をされたかといった事実を確認する。

常識的に考えてハラスメントの可能性が高い場合は、学校関係者(担任や実習指導担当者)に相談し、ハラスメントの度合に応じて、その後の対応を検討する。(保護者への連絡の要否、医療機関側への連絡・抗議の要否、被害届などの要否)

実習生の思い違いである可能性が高い場合は、対応のしかた（逃げる、かわすなど）を改めて指導し、様子を見る。

実習生の我慢が足りないと判断される場合は、社会人としての自覚をもち、多少理不尽なことがあっても我慢すべき場面があることを指導する。教員自身の体験談を話すことも有効である。

5.4 実習先の所有物（備品・什器など）の破損

トラブル事例の時期 ▶ 実習前 実習中 実習後

事例の状況

- 実習中に実習生が使用していたパソコンにお茶をこぼし、パソコンが起動しなくなってしまった。

類似事例

- 実習中に実習生がカルテ室で使用していた脚立から足を踏み外し、脚立を破損してしまった。
- 医療機関から実習着として貸与されていた白衣を、実習生が作業中にドアにひっかけて破いてしまった。

5.4.1 トラブル防止策（トラブルを回避するために気を付けていること、学生に事前指導していることなど）

【事前指導】

- ・ 実習前オリエンテーションの際に、実習先には高額な機器もあることを説明し、機器などの扱いは慎重に行うよう指導する。
- ・ 機器の補償だけでなく、機器が使用不能な状況における実習先に損害が発生することも学生に説明し、危機感をもたせる。

【起こった場合に備えての事前対策】

- ・ 学生の実習中の器物損壊を補償する賠償保険に加入しておく。
- ・ 実習先および学内の連絡網を整えておき、トラブルが起きた場合に速やかに報告を受け、対応できる体制を作っておく。

5.4.2 トラブルが発生したときは…

まずは、正確に状況把握を行うことが重要である。学生・医療機関側の双方から事情を聞く。

トラブルの度合い（緊急性、重要性）によっては損害賠償になることもあるため、学内の連絡体制に沿って、関係者へ連絡（報告）し、具体的な対応を行う。

また、学生自身も不安になっていることが多いので、学生フォローについても関係者と協力して当てる必要がある。

5.5 学生のSNSへの書き込み（病院情報・実習への不満など）

トラブル事例の時期 ▶ 実習前 実習中 実習後

事例の状況

- 実習中に実習先の不満をツイッターに掲載した。クラス内の学生と情報共有ツールとして使っていたものが実習先の担当者が知るところとなり、学校側としてお詫びを行った。

類似事例

- 実習期間中に実習先に有名人・著名人が来院したことをフェイスブック上で公表した。
- 実習終了後、実習先施設での自撮り写真をInstagramに掲載した。患者様やカルテが写り込み、個人情報などが流出する危険性があった。

5.5.1 トラブル防止策（トラブルを回避するために気を付けていること、学生に事前指導していることなど）

【事前指導】

- ・ SNSについてはいつ、誰が、どこで見ているかわからないということを理解し、自分のことを赤裸々に語りすぎない。他人や病院・施設に対して誹謗中傷は絶対に行わないよう指導する。
- ・ 実習先での不満や疑問については必ず学校に相談を行うように徹底して指導をする。

【起こった場合に備えての事前対策】

- ・ 保護者向けにSNSトラブルの事例を事前に伝え、家庭内でも指導を行ってもらうように協力を依頼する。
- ・ SNS上でアカウントを相互フォローしている学生同士でトラブルになりそうだと感じる書き込みを見かけたら、担任との情報共有を行うように指導をする。

5.5.2 トラブルが発生したときは…

鍵アカウント、裏アカウントと呼ばれる他人に知られていないSNSの中では自由奔放な発言ができるので、実習先の不満などを書き綴ってしまう軽率な行動が多々見受けられる。

SNSに関する問題は表面的にはわかりづらいため、アカウントをフォローしている学生からの情報提供でしか発見できないことも多く、早期に対応することが困難なケースもある。

トラブルが確認された場合は、当事者の学生に書き込み削除をさせ、今後そういった書き込みを絶対しないようにという指導を行うとともに、家庭内でも指導してもらうように協力を依頼し抑制していくしかない。

6 事業のプロセス

■ 平成28年度

○ 事業の年度目標

医療事務実習の実施専門学校と実施医療機関のインタビュー調査を行い、現状課題の抽出と、ガイドライン作成に向けての方向性の決定

○ 委員会開催

- ・実施委員会 11/17、2/2
- ・事業推進委員会 11/16、12/12、1/7、2/3、2/22、3/2

○ 事業内容

1. 現地調査の調査フォーマットの作成、実施機関の選定

2. 実習実施先(病院・医院)への調査・インタビュー

医療事務実習を実施している医療機関に対して、医療事務員に求める能力、実習実施メリット、課題等の聞き取り

・調査実施日・実施先

- 12/7 岡山 しげい病院・川口メディカルクリニック
- 12/9 富山 西能病院・木田小児科医院
- 12/15 群馬 黒沢病院・前橋赤十字病院
- 12/16 福島 寿泉堂総合病院・太田西ノ内病院
- 12/19 長野 わかまつ呼吸器内科クリニック・小林病院
- 12/20 愛媛 松山市民病院・梶浦病院
- 12/21 福岡 博愛会病院・マリン病院

3. 実習実施学校への調査・インタビュー

医療事務実習を実施している専門学校に対して、カリキュラムと実習の関連性、学生の状況、実習実施上の課題等の聞き取り

・調査実施日・実施先

- 12/7 岡山 岡山情報ビジネス学院
- 12/9 富山 富山情報ビジネス専門学校
- 12/15 群馬 中央情報経理専門学校
- 12/16 福島 国際ビジネス公務員大学校
- 12/19 長野 長野平青学園
- 12/20 愛媛 河原パティシエ・医療・観光専門学校
- 12/21 福岡 麻生医療福祉専門学校

4. 調査結果のまとめ、分析

▶年度総括

7地区における専門学校、医療機関のインタビュー・調査の結果、医療事務実習の現状を浮き彫りにすることができた。課題として、学校・実習先・学生間での情報共有ツールの必要性が浮き彫りとなったほか、事前・事後の学習に成果を上げている学校の事例を踏まえたガイドラインの方向性を見いだすことができた。

■平成29年度

○事業の年度目標

- ・業務補助型実習を標準型の実習と定め、そのガイドラインとツールの作成
- ・業務補助型実証実習を実施し、ガイドラインとツールの検証を行う
- ・事業成果の普及に向けての活動を開始

○委員会・GWの開催

- ・実施委員会 8/3、2/2
- ・事業推進委員会 7/31、9/25、10/30、11/10、12/15、2/2、2/7、2/21、3/1
- ・ツール集作成WG 8/28、10/18、10/30、11/24、2/2、2/7、2/21
- ・ガイドライン作成WG 8/26、10/30、2/2、2/21
- ・学習目標・評価WG 9/4、10/2、10/30、12/1、1/22、2/2、2/21
- ・実証講座WG 8/25、10/30、12/13、2/2、2/21

○事業内容

1. 業務補助型実習のためのガイドラインの作成

1年次の後期に実施される業務補助型実習を1年次の授業カリキュラムを踏まえての学習成果を
実践化させる最大の好機と捉え、カリキュラムとガイドラインを連動させる

2. ガイドラインに沿った学習目標・評価方法の策定

ガイドラインの根幹である学習目標および評価方法を中心に検討

3. ガイドラインに沿ったツールの作成

医療事務実習を実施している医療事務系専門学校からの既存ツール提供を受け、その内容と、ガ
イドラインに沿ったツールの選択のその内容の検討

4. 業務補助型実習の事前調査

実証実習実施校にとどまらない、ガイドラインをもとにした実習の実施を依頼するとともに、実
施状況の調査を行った

病院実習・事前調査

- 12/22 富山 富山情報ビジネス専門学校
- 1/12 山口 YICビジネスアート専門学校
- 1/17 福島 国際ビジネス公務員大学校
- 1/18 岡山 岡山情報ビジネス学院

- 1/24 群馬 中央情報経理専門学校
- 1/26 長野 長野平青学園
- 1/29 愛媛 河原パティシエ・医療・観光専門学校
- 2/3 福岡 麻生医療福祉専門学校

5. ガイドラインに沿った業務補助型実証実習の実施とその総括 実証実習実施校

- 群馬 中央情報経理専門学校
- 福島 国際ビジネス公務員大学校
- 山口 YICビジネスアート専門学校
- 岡山 岡山情報ビジネス学院
- 沖縄 エルケア医療保育専門学校

6. 事業成果の普及

医療事務系専門学校教員を対象としたガイドラインの説明会及び研修会を開催するとともに、本年度事業成果をダウンロード可能なホームページを立ち上げ、ガイドラインの普及を図る

▶年度総括

ガイドライン・ツールを作成し実証実習において実際に使用した結果、いくつかの改善する点を見いだすことができた。また、次年度において実習をサポートするための新たなサポートツールの必要性を想定できた。

■ 平成30年度

○ 事業の年度目標

業務補助型実習ガイドラインを基準とした体験型実習ガイドラインへの追加と、より多くの医療事務系専門学校の指針とさせるためのガイドライン運用上のサポートツールの作成および普及に向けての方策の検討

○ 委員会・WGの開催

- ・事業実施員会 8/2、11/21
- ・事業推進委員会 6/28、7/19、9/5、10/18、11/14、12/12、1/22、2/8、2/21
- ・ガイドライン作成WG 6/28、7/23、9/5、10/18、11/14、12/12、1/28、2/8、2/21

○ 事業内容

1. ガイドラインの完成（体験型実習の追加）

業務補助型実習を想定して作成した29年度版のガイドラインに加え、今後の学習及び実習へのモチベーションアップを目的とした体験型実習をガイドラインに追加をした。また、事業の経緯など事業総括的な内容を加えた。

2. ツールの追加作成（体験型実習での使用に合わせた変更）

体験型実習に使用されるツールを抽出すると同時に内容を体験型実習に合わせた内容に変更をした。

3. ガイドライン運用に向けてサポートツールの作成

①業務補助型実習テキスト

医療事務実習の主要な実習となる業務補助型実習に向けて、本ガイドラインに沿った学生を対象としたテキストを作成し、学生の実習に向けての準備から実習での学びの標準化を図った。

②実習先開拓用パンフレット

専門学校へのインタビューで実習の運営上の課題としてあげられた実習先開拓のため、実習受入先のメリット、そして実習の意義を実習先、実習学生のインタビューを中心に構成したパンフレットを作成した。

③トラブルシューティング集

想定される実習におけるトラブルのピックアップと、それらを予防する観点からのトラブルシューティング集を作成した。

4. 実習報告会の現地視察

本ガイドラインに沿って実施された実証実習の成果の確認のため、下記学校で開催された実習報告会の現地視察を行った。

沖縄 エルケア医療保育専門学校

福島 国際ビジネス公務員大学校

群馬 中央情報経理専門学校

岡山 岡山情報ビジネス学院

5. 説明会・教員研修会・成果報告会の実施

①ガイドライン説明会・研修会

本ガイドラインの普及のため、全国の医療事務系専門学校の教員を対象としたガイドライン説明会および医療事務系教員研修会を開催した。

日時：平成31年1月28日（月）～29日（火）

会場：フクラシア品川高輪

研修講師：長面川さより氏（(株)ウォームハーツ代表）

②成果報告会

日時：平成31年2月8日（金）

会場：東京ガーデンパレス

6. 事業成果の普及に向けての検討

①ホームページによる本事業成果のダウンロード（ガイドライン・ツール・テキスト・実習先開拓パンフレット・トラブルシューティング集）

全ての成果物は各専門学校の事情を勘案した変更を加えられるようなアプリケーション（Office WordまたはExcel）にて作成する

②本事業の成果を継続して活用されるよう、また、今後の医療施設の環境変化に対応した変更を加えるために医療事務系教員を対象にした説明会もしくは研修会を年度毎に開催する。

▶年度総括

昨年度の成果である業務補助型実習ガイドラインの実証から、その業務補助型実習による学生のより実践的かつ主体的な学習に結びつくような課題を見いだすことができた。本年度はそれらの課題解決に向け実習環境をより充実したものとするための教育的モチベーションアップのための体験型実習の付加、学生用テキスト、実習先開拓ツールなどのサポートツールを整備することができた。

また、本事業の普及および医療業界の構造的な変化に対応できるより学習効果の高い実習運営を可能にするため、次年度以降も当協会に継続的な医療事務系教員研修を実施することを確認することができた。

▶▶▶事業総括

本事業の対象である「医療事務」は実習先を同じくする「医師」、「看護師」等の職種と比較すると、実習が職業教育の中で重要な位置づけをもつ学習機会であるにもかかわらず、その方法論やシステムが標準化されておらず、実習先機関の理解も不明瞭であった感は否めない。これまで、各専門学校が独自の知見や経験値をもとに実施をしていた「医療事務実習」が、それらの知見の集約と整理、検討を加えられたことによってガイドラインとして整備をされた意義は大きい。特に、本ガイドラインが教育の主体者である全ての医療事務を学ぶ学生を対象に、教育効果を高める事や、実習を通して得られた医療施設との信頼をもとに就職環境を改善できたこと等の成果に結びつけることが実証されたことは本事業の実効性が証明されたこととして喜ばしい限りである。しかしながら、医療事務学習の集大成ともいえる業務参画型実習については、その全学生の網羅性を保てない等の理由により、このガイドラインでは規定をすることはできなかったが、単なる事務員というだけでなくマネジメントに関わる方向性を含めて今後も本事業の継承課題として検討を加えていく必要性を感じる。

医療事務の現場である医療施設では、ICT化、AIの導入等の環境変化に対する医療事務職員の対応には、ますます多様化、高度化が求められている一方、患者様という医療事務のサービス対象者へのアプローチ力またはチーム医療の中でメインのメディカルスタッフへのサポート力など、よりその人間力、コミュニケーション力が求められている事が医療施設からのインタビューからも明らかになっている。

今後も医療事務職環境の変化に対する情報収集や、医療事務教育の現場で本ガイドラインを実際に使用して得られた新たな知見をもとにした改善を加え、本ガイドラインの有効性をより多くの医療事務系学科を有する専門学校に理解を求め普及させることも継続的な課題として進めていきたいと考える。本事業は本年度をもって最終年度を迎えるが、既述した本事業で得られたガイドラインの普及および今後の課題検討を当全国専門学校教育研究会において継承し、検討の場を設けることによって、単に医療事務という職種に限ったガイドラインだけに留まらない展開も視野に入れてゆきたい。

7 本事業の医療機関所属委員からのメッセージ

本事業への感想

将来医療事務分野で活躍できる学生を養成することを目的に29年夏から約1年半関わらせていただきました。それぞれの分野からの委員が情報や意見を出し合い、委員会で途中一定の形とした中で評価しながら、フィットアンドギャップを繰り返し、医療機関での実習に関わる学生や教員の入口から出口までの動きとして、この事業で個々の成果物として完成することができたことは医療機関で働くものにとってとても喜ばしいところです。今までは学校ごとに違う形での取り組みになっていたことが標準化させることに向けて、教育現場でも医療事務実習の受け皿となる方たちにとっても双方に良い結果が生まれ、質の向上に繋がると期待しています。

医療教育現場における実習の意義

日常生活の中での診療を受けることや、学校で受ける医療事務の学びから、実習では学生自身が実際の医療に繋がる現場を見たときに、自分は将来医療事務の分野で働くことがイメージできるか、病で困られている方、またその家族を支援の一助になることができるかなど、いろんなことを体感することができる場があります。短期間の実習中医療現場で働くものとの交流や、患者及び家族と触れ合うことは自分の適性を振り返ることもでき、将来の職業選択する確認地点の一つとなりその比重はとても大きいものと感じています。実習を引き受ける医療機関にとっても、学生や教員とのコミュニケーションを取ることで教育現場での学びが今の医療現場にマッチしているか意見交換することもでき、学生の考え方が知ることができることはとても貴重な場であり時間であると考えます。

今後の医療事務職員育成への課題・期待

少子高齢化の時代、生産年齢人口の減少、また働き方改革も叫ばれ、医師や看護師等の人材確保が難しいことや、限られた人材で働くことでの超過勤務が規制される時代となりました。そのサポートとして、国家資格をもつ職種から医療現場で活躍できる人材育成として、医療事務分野にも大きな期待が寄せられています。その期待に応えられるべく学校の学びの基礎の部分から、就職しても継続して学び自己研鑽できる人こそが、組織や地域社会貢献へとつながるものと確信しています。世の中の変化に対応するには学びが必要であり自分を変化させる必要があります。学ぶことを楽しめることができる人材の育成を期待しております。

医療法人創和会 しげい病院 (岡山県 倉敷市)

地域連携部課長 河原 秀明

実習の意義

医療事務学の実習は、医療事務を志すみなさんが学校の教育課程を通して学んだ幅広い分野の理論的知識や専門的知識および技術を、実際の医療現場で実践することにより整理・統合する機会として位置づけられています。また医療機関をはじめ保健・医療・福祉施設、在宅療養の現場などで行う実習体験を通して、問題解決力を培い自己の課題を見いだすきっかけになります。さらに、実習の経験や体験をもとに医療人としてふさわしい倫理的価値観や態度も身につけることができるようになるでしょう。このように教室の授業だけではなかなかわからなかった種々の学びを実習では体得することができます。

これからの医療事務職に期待すること

現在日本の医療・福祉分野に就業する人は、就労人口の12%にあたる700万人が従事しています。その数は第1位の製造業、第2位の卸・小売業に次ぐ第3位の規模であり、2040年には19%までに成長し、日本最大級の産業になる見込みとされています。

日本政府が作った骨太方針2018（経済財政運営と改革の基本方針）では医療・介護供給体制に「効率化」と「生産性向上」の必要性が明記され医療・福祉分野が将来の日本の基幹産業になりうるということが官民ともに意識されることになりました。しかし、Post Capitalismが進むにつれて、社会環境において人口動態（少子高齢化と都市集中型）問題や経済問題等も重なり、必然的に社会保障制度全体への極めて厳しい変革が行われようとしています。そのため、各医療機関や介護施設等は官民合同の地域医療構想、地域包括ケア計画、2年に1度の診療報酬・介護報酬改定などで求められる「効率化」と「生産性向上」の圧力がくわわり、同時に改正の中身を正確に把握し、自らの組織が未来の進路を見誤ることなく生き残ることができる道を探し出さなければならなくなりました。

医療事務の現場では、診療報酬・介護報酬改定等が行われ制度そのものが大きく変わることがしばしばあります。しかしながら日々の業務は今まで通り滞りなくこなしていかなければなりません。この変遷の波に翻弄されることなく日々の実務を正確に行うためには、今まで学校で学んだ基礎知識と実習での経験や体験に何度も立ち返り、自らの知識を正確にしつつ新たに必要になった知識を身に付けてゆかなければなりません。そのうえで自分本来の独創性や創造性を生かして組織に貢献し、また、評価される職員になるように努力しなければなりません。

学校での勉強、そして、その知識を醸成させるための実習を経験し、その知識と経験を統合して将来の医療人として大きく飛翔することを期待します。

社会福祉法人聖母会 聖母病院（東京都 新宿区）

医事課課長 渡辺 元三

付 録

ツール集

目次

4.1-①	業務補助型実習事前学習状況チェック表【学生用】	57
4.1-②	業務補助型実習事前学習状況チェック表【教員用】	58
4.1-③	業務補助型実習事前学習状況	59
4.1-④	体験型実習事前学習状況チェック表【学生用】	60
4.1-⑤	体験型実習事前学習状況チェック表【教員用】	61
4.2	実習依頼書	62
4.3	実習受入承諾書	64
4.4	実習概要確認書	65
4.5	実習生個人票	66
4.6	実習委託契約書	68
4.7	誓約書	70
4.8-①	医療事務実習オリエンテーション資料	71
4.8-②	体験型実習事前学習シート	80
4.9	実習先概要確認書（学生）	81
4.10-①	医療事務実習日誌	82
4.10-②	体験型実習の記録	88
4.11	医療事務実習巡回記録	89
4.12	医療事務実習後の礼状例文	90
4.13-①	業務補助型実習のまとめ	92
4.13-②	体験型実習のまとめ	99
4.14-①	業務補助型実習評価表【医療機関用】	101
4.14-②	業務補助型実習評価表【学生用】	102
4.14-③	業務補助型実習評価総括表	103
4.15-①	実習スケジュール【病院】	104
4.15-②	実習スケジュール【診療所】	105
4.16	医療事務実習プログラムアンケート	106
4.17	実習プログラム改善シート	109

業務補助型実習事前学習状況チェック表【学生用】

[4.1-①]

学校名

記入日：元号 年 月 日

実施期間 (年 月 日 ~ 年 月 日) 氏名

業務補助型実習を行う前に、学習科目ごとに学習状況の自己評価を行ってください。

学習達成状況を良く読んで、到達度欄に【○、△、×】を記入してください。

【1人で行うことができると思う場合は○ 参考文献を見たり、助言を得て行うことができると思う場合は△ 全く行うことができない場合は×】

科目	項目	学習達成状況	到達度	
医療保険	医療保険	医療保険制度概要	医療保険全般(医療保険、後期高齢者医療制度)のそれぞれの特徴について理解し、説明することができる	
		保険診療の流れ	保険診療の流れ、保険者・審査支払機関との関係について理解し、説明することができる	
		職域保険(社保)	保険者番号、被保険者の記号・番号、本人・家族の種別等について理解し、職域保険被保険者証から確認することができる	
		地域保険(国民健康保険)	保険者番号、被保険者の記号・番号について理解し、国民健康保険被保険者証から確認することができる	
		後期高齢者医療制度	保険者番号、被保険者番号、負担割合について理解し、後期高齢者医療被保険者証から確認することができる	
	公費負担医療	公費負担医療制度概要	公費負担医療制度のそれぞれの特徴について理解し、説明することができる	
		生活保護法	公費対象者、医療費助成内容、申請の流れを理解し、医療券から、法別番号、公費負担者番号、受給者番号を確認することができる	
		障害者総合支援法	公費対象者、医療費助成内容、申請の流れを理解し、受給者証から、法別番号、公費負担者番号、受給者番号を確認することができる	
		感染症予防・医療法	感染症法(特に結核医療)の公費対象者、医療費助成、申請の流れを理解し、受給者証から、法別番号、公費負担者番号、受給者番号を確認することができる	
		精神保健及び精神障害者福祉に関する法律	公費対象者、医療費助成内容、申請の流れを理解し、患者票から、法別番号、公費負担者番号、受給者番号を確認することができる	
		難病(特定)医療費助成制度	公費対象者、医療費助成内容、申請の流れを理解し、受給者証から、法別番号、公費負担者番号、受給者番号を確認することができる	
		健康保険法	現物給付(範囲外)と現金給付	健康保険法における、主な医療給付について理解し、説明することができる 現物給付と現金給付の違いについて、理解し、説明することができる
	高額療養費		高額療養費とは何か、説明することができる	
	保険外併用療養費		保険外併用療養費とは何か、選定療養と評価療養の違いについて、理解し説明することができる	
	その他			
医療事務・診療報酬請求	外来	初再診料	診療録等から、初・再診、時間外・休日・深夜の受診、患者年齢について確認し、正しく算定することができる	
		投薬	診療録等から、投薬の実施、薬剤名、規格、処方量等を確認し、正しく算定することができる	
		注射	診療録等から、注射の実施、手技名、使用薬剤名、医療材料等を確認し、正しく算定することができる	
		処置	診療録等から、処置の実施、処置名、使用薬剤名、医療材料等を確認し、正しく算定することができる	
		検査	診療録等から、検査の実施、検査名、使用薬剤名等を確認し、正しく算定することができる	
		画像診断	診療録等から、画像診断の実施、撮影名、使用薬剤名等を確認し、正しく算定することができる	
	その他			
医事コンピュータ	医事コンピュータ	初診患者登録・再来患者確認	初診患者の患者情報・保険情報が入力できる。再来患者の登録情報を確認できる	
		病名登録	病名登録、転帰を正しく行うことができる	
		簡易な外来内容の入力	初・再診、投薬、注射、検査、画像診断等の簡易な外来内容の入力ができる	
		会計データ確認	会計データを確認し、保険点数と負担割合、患者負担金について確認できる	
	その他			
業界理解	実習前研究	実習先医療機関の組織の各部門、業務内容を理解し、整理することができる		
		実習先医療機関の診療科や患者の特性について理解し、整理することができる		
		実習先医療機関の施設基準届出内容(主に外来)について理解し、整理することができる		
その他				
臨床医学	病名・病名略語	主な病名を読むことができる		
		主な病名の略語について理解し、説明することができる		
	医療用語	頻度の高い医療用語について理解し、説明することができる		
		診療科で特徴的な医療用語、医療略語について理解し、説明することができる		
	人体構造と機能	人体の構造(骨格、臓器名等)と機能(組織の働き等)について理解し、説明することができる		
	疾病の成り立ち	主な疾病の成り立ちについて理解し、説明することができる		
	臨床検査の基礎知識	臨床検査について基礎的な内容を理解し、説明することができる		
		臨床検査部門の業務について理解し、実習前教育と関連づけることができる		
薬剤の基礎知識	薬剤の作用機序について基礎的な内容を理解し、説明することができる			
	薬剤部門の業務について理解し、実習前教育と関連づけることができる			
その他				
接遇マナー	接遇マナー	基本的な接遇マナーで、他者と積極的に接することができる		
		コミュニケーション	挨拶や聞かれたことへの受け答えに加えて、その場に応じたコミュニケーションを積極的に行うことができる	
		患者心理	来院患者の特性に応じた対応を行うことができる	
	その他			
その他()				
個人情報の取扱い	個人情報の取扱い	個人情報の適切な取扱いを学び、留意すべき点を想定し、状況判断ができる		
		その他		

業務補助型実習事前学習状況チェック表【教員用】

[4.1-②]

学校名

記入日: 元号 年 月 日

実施期間 (年 月 日 ~ 年 月 日)

氏名

業務補助型実習前の学生の学習状況となります。

到達度欄に記載された【○、△、×】は、次の基準で記載をしています。

【1人で行うことができると思う場合は○ 参考文献を見たり、助言を得て行うことができると思う場合は△ 全く行うことができない場合は×】

実施していない項目については、実施欄に×を記載しています。

科目	項目	学習達成状況	到達度	実施	
医療保険	医療保険	医療保険制度概要	医療保険全般(医療保険、後期高齢者医療制度)のそれぞれの特徴について理解し、説明することができる		
		保険診療の流れ	保険診療の流れ、保険者・審査支払機関との関係について理解し、説明することができる		
		職域保険(社保)	保険者番号、被保険者の記号・番号、本人・家族の種別等について理解し、職域保険被保険者証から確認することができる		
		地域保険(国民健康保険)	保険者番号、被保険者の記号・番号について理解し、国民健康保険被保険者証から確認することができる		
		後期高齢者医療制度	保険者番号、被保険者番号、負担割合について理解し、後期高齢者医療被保険者証から確認することができる		
	公費負担医療	公費負担医療制度概要	公費負担医療制度のそれぞれの特徴について理解し、説明することができる		
		生活保護法	公費対象者、医療費助成内容、申請の流れを理解し、医療券から、法別番号、公費負担者番号、受給者番号を確認することができる		
		障害者総合支援法	公費対象者、医療費助成内容、申請の流れを理解し、受給者証から、法別番号、公費負担者番号、受給者番号を確認することができる		
		感染症予防・医療法	感染症法(特に結核医療)の公費対象者、医療費助成、申請の流れを理解し、受給者証から、法別番号、公費負担者番号、受給者番号を確認することができる		
		精神保健及び精神障害者福祉に関する法律	公費対象者、医療費助成内容、申請の流れを理解し、患者票から、法別番号、公費負担者番号、受給者番号を確認することができる		
		難病(特定)医療費助成制度	公費対象者、医療費助成内容、申請の流れを理解し、受給者証から、法別番号、公費負担者番号、受給者番号を確認することができる		
	健康保険法	現物給付(範囲外)と現金給付	健康保険法における、主な医療給付について理解し、説明することができる 現物給付と現金給付の違いについて、理解し、説明することができる		
		高額療養費	高額療養費とは何か、説明することができる		
		保険外併用療養費	保険外併用療養費とは何か、選定療養と評価療養の違いについて、理解し説明することができる		
		その他			
医療事務・診療報酬請求	外来	初再診料	診療録等から、初・再診、時間外・休日・深夜の受診、患者年齢について確認し、正しく算定することができる		
		投薬	診療録等から、投薬の実施、薬剤名、規格、処方量等を確認し、正しく算定することができる		
		注射	診療録等から、注射の実施、手技名、使用薬剤名、医療材料等を確認し、正しく算定することができる		
		処置	診療録等から、処置の実施、処置名、使用薬剤名、医療材料等を確認し、正しく算定することができる		
		検査	診療録等から、検査の実施、検査名、使用薬剤名等を確認し、正しく算定することができる		
		画像診断	診療録等から、画像診断の実施、撮影名、使用薬剤名等を確認し、正しく算定することができる		
	その他				
医事コンピュータ	医事コンピュータ	初診患者登録・再来患者確認	初診患者の患者情報・保険情報が入力できる。再来患者の登録情報を確認できる		
		病名登録	病名登録、転帰を正しく行うことができる		
		簡易な外来内容の入力	初・再診、投薬、注射、検査、画像診断等の簡易な外来内容の入力ができる		
		会計データ確認	会計データを確認し、保険点数と負担割合、患者負担金について確認できる		
	その他				
業界理解	実習前研究	実習先医療機関の組織の各部門、業務内容を理解し、整理することができる			
		実習先医療機関の診療科や患者の特性について理解し、整理することができる			
		実習先医療機関の施設基準届出内容(主に外来)について理解し、整理することができる			
臨床医学	病名・病名略語	主な病名を読むことができる			
		主な病名の略語について理解し、説明することができる			
	医療用語	頻度の高い医療用語について理解し、説明することができる			
		診療科で特徴的な医療用語、医療略語について理解し、説明することができる			
	人体構造と機能	人体の構造(骨格、臓器名等)と機能(組織の働き等)について理解し、説明することができる			
	疾病の成り立ち	主な疾病の成り立ちについて理解し、説明することができる			
	臨床検査の基礎知識	臨床検査について基礎的な内容を理解し、説明することができる			
		臨床検査部門の業務について理解し、実習前教育と関連づけることができる			
薬剤の基礎知識	薬剤の作用機序について基礎的な内容を理解し、説明することができる				
	薬剤部門の業務について理解し、実習前教育と関連づけることができる				
その他					
接遇マナー	接遇マナー	基本的な接遇マナーで、他者と積極的に接することができる			
		コミュニケーション	挨拶や聞かれたことへの受け答えに加えて、その場に応じたコミュニケーションを積極的に行うことができる		
		患者心理	来院患者の特性に応じた対応を行うことができる		
	その他				
その他()					
個人情報の取扱い	個人情報の取扱い	個人情報の適切な取扱いを学び、留意すべき点を想定し、状況判断ができる			
		その他			

業務補助型実習事前学習状況

記入日: 元号 _____ 年 _____ 月 _____ 日

学校名 _____

学科名: _____

実習期間(_____ 年 _____ 月 _____ 日 ~ _____ 年 _____ 月 _____ 日)

氏名: _____

実習を行う前に学習している内容を、各学生が理解、修得状況、実習との関連についてまとめたものです。
なお、学校にて、各科教育課程で教科指導している内容については、別途作成のものをご参考にしてください。

①医療保険

【特記事項】

②診療報酬請求事務に関する知識

【特記事項】

③業界理解

【特記事項】

④臨床医学・人体構造に関する知識

【特記事項】

④接遇・マナーに関する知識

【特記事項】

⑥その他

【特記事項】

体験型実習事前学習状況チェック表【学生用】

[4.1-④]

学校名 _____

記入日：元号 _____ 年 _____ 月 _____ 日

実施期間 (_____ 年 _____ 月 _____ 日 ~ _____ 年 _____ 月 _____ 日)

氏名 _____

体験型実習を行う前に、学習科目ごとに学習状況の自己評価を行ってください。

学習達成状況を良く読んで、到達度欄に【○、△、×】を記入してください。

【1人で行うことができると思う場合は○ 参考文献を見たり、助言を得て行うことができると思う場合は△ 全く行うことができない場合は×】

科目	項目	学習達成状況	到達度
医療保険	医療保険	医療保険制度の概要を理解し、しくみについて説明することができる	
		患者負担割合・給付割合について、その違いを理解し、説明することができる	
	公費負担医療制度概要	公費負担医療制度の概要を理解し、説明することができる	
	その他		
診療報酬請求	外来	診療記録について、保存期間及び記録方法を説明することができる	
	その他		
業界理解	実習医療機関研究	実習先医療機関の診療科などの施設概要を調べ、まとめることができる	
	その他		
臨床医学	人体構造機能論・医療用語	簡易な医療用語について理解し、説明することができる	
	その他		
接遇マナー	接遇マナー	基本的な接遇マナーで、他者と接することができる	
	コミュニケーション	挨拶や聞かれたことへの受け答えなど、基本的なコミュニケーションを図ることができる	
	患者心理	来院患者の特性に応じて、患者の心理状態の違いや対応に留意が必要な状況を想定することができる	
	その他		
その他(_____)			
	個人情報保護の取扱い	個人情報の適切な取扱いを学び、留意すべき点を想定できる	
	その他		

体験型実習事前学習状況チェック表【教員用】

[4.1-⑤]

学校名 _____

記入日: 元号 年 月 日

実施期間 (年 月 日 ~ 年 月 日) _____

氏名 _____

体験型実習前の学生の学習状況となります。

到達度欄に記載された【○、△、×】は、次の基準で記載をしています。

【1人で行うことができると思う場合は○ 参考文献を見たり、助言を得て行うことができると思う場合は△ 全く行うことができない場合は×】

実施していない項目については、実施欄に×を記載しています。

科目	項目		学習達成状況	到達度	実施
医療保険	医療保険	医療保険制度	医療保険制度の概要を理解し、しくみについて説明することができる		
			患者負担割合・給付割合について、その違いを理解し、説明することができる		
		公費負担医療制度概要	公費負担医療制度の概要を理解し、説明することができる		
	その他				
診療報酬請求	外来	診療記録の保管管理	診療記録について、保存期間及び記録方法を説明することができる		
		その他			
業界理解		実習医療機関研究	実習先医療機関の診療科などの施設概要を調べ、まとめることができる		
		その他			
臨床医学	人体構造機能論・医療用語		簡易な医療用語について理解し、説明することができる		
	その他				
接遇マナー	接遇マナー		基本的な接遇マナーで、他者と接することができる		
	コミュニケーション		挨拶や聞かれたことへの受け答えなど、基本的なコミュニケーションを図ることができる		
	患者心理		来院患者の特性に応じて、患者の心理状態の違いや対応に留意が必要な状況を想定することができる		
	その他				
その他()					
	個人情報保護の取扱い		個人情報の適切な取扱いを学び、留意すべき点を想定できる		
	その他				

発信番号
元号 ○年○月○日

医療機関名
院長 ○○ ○○ 様

○○○○ 専門学校
学校長 ○○ ○○ 印

実習依頼書

拝啓 ○○の候、貴院益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は本校の専門学校教育に対しまして格別なご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本校では実習目的を記入（例：実社会において即戦力となる人材育成を目的として医療機関実習を行っています等）

つきましては、ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、貴院での医療事務実習を下記のようにお引き受けいただきたくお願い申し上げます。また、お引き受けいただける場合には、「別紙」（実施可能な項目にレ印を入れたもの）、承諾書、振込依頼書をご記入の上、返信用封筒にてご返送くださいますようお願い申し上げます。

なお、詳細につきましては、後日担当よりご連絡させていただきます。

敬 具

実習費がある場合のみ

記

- 1. 実習期間 元号○年○月○日（ ）～ ○月○日（ ）の期間内で○日間
- 2. 対象学生 ○○○○学科 ○年次
- 3. 希望人数 ○名
- 4. 実習内容 別紙
- 5. 同封書類 承諾書
振込依頼書 実習費がある場合のみ
返信用封筒 等
- 6. その他 実習費について（○○○○円／人とさせていただきますが、貴院の規定がある場合にはご指示に従います。）（実習終了後、指定口座へ振り込み）

実習費がある場合のみ

以 上

○○○ 専門学校
郵便番号
所在地
TEL
FAX
メール

担当： ○○ ○○
○○ ○○

別紙 実習内容について

貴医療機関名
役職名
ご芳名

(1) 以下の3つのうち1つに○をご記入下さい。

- 1 () 病院・医院実習を引受けても良い
- 2 () 今回は見送りたい
- 3 () その他、(理由:)

(2) 上記にて「1. 病院・医院実習を引受けても良い」に○を付けていただいた場合は、お手数ですが以下のご記入もお願い致します。

実習は下記内容を希望致しておりますが、貴院のご都合に従いますので、実習可能な項目にレ印をお願い致します。なお、ご対応いただく実習内容は基礎的な内容で構いません。ご多忙の中お手数をお掛け致しますが、ご検討お願い致します。

実習内容

- 施設内見学
- 患者対応
- 電話対応
- 患者登録
- 保険登録
- 新規カルテ作成（紙カルテの場合）
- カルテ整理（紙カルテの場合）
- 会計業務
- 薬の受け渡し
- 院外処方せん交付業務
- レセプト関連業務
- その他医事業務全般の補助 等

元号 年 月 日

〇〇〇〇 専門学校

学校長 〇〇 〇〇

医療機関名

住 所

電話・FAX

メ ー ル

代表者名

実 習 受 入 承 諾 書

下記内容により実習受け入れを承諾いたします。

記

1. 実習期間 元号 年 月 日 ～ 元号 年 月 日 (名)
元号 年 月 日 ～ 元号 年 月 日 (名)
2. 実習時間 平日 時 分 ～ 時 分
土曜 時 分 ～ 時 分
曜 時 分 ～ 時 分 (平日午後休診日等)
昼休憩 時 分 ～ 時 分
3. 実習担当者 所属・役職 :
氏 名 :
4. 受け入れ条件 別紙 実習内容
貴院指定の服装 有 () (準備 有・無)
無 (当校制服) ←制服有の場合
貴院指定のシューズ 有 () ・無
貴院指定の名札 有・無
貴院指定の誓約書 有 (同封・後日) ・無
貴院指定の契約書 有 (同封・後日) ・無
5. その他 (ご要望等)

以 上

実習概要確認書

1. 実習期間 元号 年 月 日 () ~ 元号 年 月 日 ()
休診日 _____ (曜日)
2. 実習時間 平日 時 分 ~ 時 分
土曜 時 分 ~ 時 分
曜 時 分 ~ 時 分
昼休憩 時 分 ~ 時 分
3. 実習生 ○○○○学科 ○年 ○○ ○○ (個人票添付)
4. 実習内容
- ・患者応対、電話応対
 - ・患者登録、保険登録
 - ・新患カルテ作成、カルテ整理
 - ・薬の受け渡し、院外処方せんの交付
 - ・会計業務
 - ・レセプト関連業務
 - ・検査、レントゲン、CT 等施設内見学 等
- ※事前確認 (依頼書等) の内容を記載
5. その他 (1) 今後、打ち合わせ等につきまして、学生よりご連絡させていただきます。
(2) 期間中実習日誌を毎日学生が記入しますので、お手数ですが出欠の確認印とコメントの記入をお願いします。
(3) 期間中、担当教員が訪問させていただきますので、お気づきの点等お教えいただければ幸いです。
(4) 実習終了後実習評価表の記入、送付をお願いします。
6. 緊急連絡先 ○○○○専門学校 TEL : ○○○-○○○-○○○○
担当 : ○○ ○○ (携帯 : ○○○-○○○○-○○○○)
○○ ○○ (携帯 : ○○○-○○○○-○○○○)

実習生個人票

年 月 日現在

学 校 名			写 真 (3.5×4.5)
学科・学年	科 コース 年生		
学籍番号			
ふりがな			
氏 名			
生年月日	元号 年 月 日生 (歳)	男・女	
ふりがな			携帯電話
現 住 所	〒		
ふりがな			自宅・緊急時連絡先
帰省先・実習中 の 住 所	〒		
年	月	学 歴 ・ 職 歴 等	

運 転 免 許			
大型・普通・二輪・AT 限定		取得済	月頃取得予定
得意科目		健康状態	
趣味特技			

課外活動（ボランティア活動等）
長所・自己PR
実習目標

アクセス

交通機関	区 間	所要時間
総所要時間	時間	分

履修科目、取得検定に関しては成績表を添付。

実習委託契約書

〇〇法人〇〇会 〇〇病院（医療機関名）を甲とし、〇〇〇〇〇〇〇〇専門学校（学校名）を乙として甲乙間において次の条項により医療事務実習委託契約を締結する。

第1条 （医療事務実習期間）

実施期間は□□〇〇年〇〇月〇〇日 ～ □□〇〇年〇〇月〇〇日とする。

第2条 （学生の氏名）

〇〇科 2年 〇〇コース 〇〇 〇〇

第3条 （実習場所）

本実習は、甲の関連する事業所において実施する。

第4条 （学校の指導）

乙は学生に対し、本契約書に定める事項を周知するとともに、医療事務実習を円滑に実施する為に必要な事前指導および事後指導を行う。

第5条 （医療機関からの指導）

甲は学生が医療事務実習を通して現場の医事業務を学び、学生自身が成長を感じられるよう必要な指導・助言を行う。

（実習費アリの場合）乙は甲に対し、医療事務実習委託料として1日〇〇〇〇円を支払うものとする。

第6条 （報酬・手当）

甲は学生に対し、医療事務実習実施期間中の報酬、および通勤費、食費等の手当は支給しない。

第7条 （機密の保持）

医療事務実習実施期間中、乙の学生が知り得た甲および甲の医療機関内の内部情報および個人情報、現在および将来にわたり、乙を含めて他に一切洩らしてはならない。また乙は、これを学生に遵守するよう指導監督する。

第8条 （服務）

医療事務実習実施期間中、学生は甲の担当者の指示に従うとともに、あらかじめ甲の指定する所定の勤務時間を遵守する。また甲の信用を傷つけるなど業務に支障をきたすような行為を行ってはならない。

（本人提出の場合）
実習開始前日までに

第9条 （誓約書）

学生は医療事務実習に先立ち、甲に対し別途誓約書を作成し、乙を通じて提出する。

第10条 (事故等)

医療事務実習中及びその実習先への通学途中に生じた事故により身体に障害を被った場合、乙が指定し学生が加入する障害保険により対応する。

第11条 (賠償)

医療事務実習中及びその往復途中に甲ならびに他人に怪我をさせたり、他人の財物を損壊するなど損害を与えた場合、乙が指定し学生が加入する賠償責任保険により保証する。

第12条 (契約の解除)

実習生として相応しくない行為があった場合、甲は医療事務実習を停止するか、もしくは本契約を解除または変更することができる。

第13条 (その他)

本契約書に定めのない事項、又は疑義が生じた場合はその都度甲乙協議して決定する。

上記契約の証しとして、本書2通を作成し、甲乙記名捺印のうえ各自1通を保有するものとする。

□□〇〇年〇〇月〇〇日

甲 〒〇〇〇〇-〇〇〇〇
〇〇県〇〇〇〇〇
医療法人 〇〇会 〇〇病院
病院長 〇〇 〇〇 ㊟

乙 〒〇〇〇〇-〇〇〇〇
〇〇県〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇専門学校
学校長 〇〇 〇〇 ㊟

〇〇年〇〇月〇〇日

誓 約 書

〇〇法人〇〇会

〇 〇 病 院

病院長 〇〇 〇〇 様

〇〇〇〇専門学校

〇 〇 〇 〇 科

氏 名 〇〇 〇〇 ⑩

保護者 〇〇 〇〇 ⑩

貴院における医療事務実習にあたり、下記の事項を厳守する事を誓います。

記

1. 貴院の実習担当責任者の指揮及び監督に従います。
2. 本実習実施期間中の報酬、および通信費、食費等の手当は受け取りません。
3. 貴院の内部情報や患者様の個人情報に関することを、実習期間終了といえども一切他言しません。(SNS含む)
4. 就業規則、その他の諸規則を固く守ります。
5. 業務の都合上、実習時間及び実習日の変更がある場合にも、これに従います。
6. 貴院の職場秩序を守り、実習生として品位品格を損なうことはいたしません。
7. 無断で欠勤、遅刻、早退はいたしません。やむをえない場合は必ず実習担当責任者に連絡いたします。
8. 故意、あるいは重大な過失により、貴院に損害を与えたときはその責を負います。
9. 医療事務実習に先立ち、学校等の指導に従いインターンシップ活動賠償責任保険を契約いたします。(補償内容は別紙参照)
10. この誓約に違反し、実習生として相応しくない行為があった場合、その後の実習が停止になることに意義ありません。

以 上

元号 年度

医療事務実習
オリエンテーション資料

〇〇専門学校

〇〇学科 年 クラス

氏名 _____

目 次

I	医療事務実習の概要	
1、	はじめに	3
2、	医療機関から実習生に求められるもの	3
3、	実習目的	4
4、	実習内容	4
II	医療事務実習の準備と心構え	
1、	誓約書などの書類提出	5
2、	個人情報保護法の遵守	5
3、	実習中の心構え	5
4、	服装等	6
5、	欠席する場合	7
6、	実習終了にあたって	7
7、	実習日誌・実習記録	7
8、	その他	8
9、	評価方法	8
10、	チェックシート	9

I 医療事務実習の概要

1、はじめに

医療事務実習は学校で学んだ知識や技術を現場で再確認し、自分の不足部分を実感することで、教科書には書いていない『現場での実践』を肌で感じる良い機会です。

実習生の受け入れは、医療機関のご厚意によるものだとことを決して忘れず、感謝の気持ちを持ちながら、積極的に多くのことを習得してきてください。

また、学生生活とは違った社会人としてのあるべき姿を現場の方々のご指導や助言をもとに学んできてください。

2、医療機関から実習生に求められるもの

- (1) 実習する医療機関の概要を知ったうえで来てほしい。
- (2) 保険制度、基礎的医学用語について復習をして来てほしい。
- (3) 適切な言葉遣いができること。
- (4) 習ったことと、現場のギャップはあって当たり前。素直に受け入れてほしい。
- (5) 説明や質問をしたときに反応してほしい。
- (6) 実習の記録が反省のみである。日々、目標を持って実習に取り組み、ステップアップしてほしい。

医療機関からこのようなご意見が寄せられています。

実習は自分次第でどのようにでも変わるものです。早くその部署に溶け込んで、より多くのことを学んでください。

失敗はつきものです。失敗を恐れず自分で考えて動いてみてください。

自分で行動できた人ほど、より良い体験ができます。どんどん質問をして多くのものを吸収して来ててください。

3、実習目的

- (1) 高度な知識や専門技術に触れ実務能力を高める。
- (2) 医療人として働くことの姿勢と社会的意義を学ぶ。
- (3) 社会人としての心構えを身につける。
- (4) 職場でのコミュニケーション能力を養う。
- (5) 実習先医療機関について知識を深める。

4、実習内容

- (1) 全体の仕事内容
- (2) 医療機関の1日の流れ
- (3) 個別の仕事内容について（受付・会計窓口・病歴室など）
- (4) 医療機関内見学
- (5) 環境整備（清掃、整理整頓）
- (6) 接遇（職員、来客、電話、患者）、インフォメーション

II 医療事務実習の準備と心構え

1、誓約書などの書類提出

- (1) 実習前に提出する書類がある場合は、期限に余裕をもって提出すること。
- (2) しわ、しみがつかないように気をつける。できれば、クリアファイルに入れて出すのが望ましい。
- (3) 印鑑は丁寧に押印する。(かすれたり、曲がったりしないよう)

2、個人情報保護法の遵守

- (1) 患者様の個人情報は決して他言しないこと。
- (2) 実習現場のこと、職員のこと、上司のこと、先生のこと、すべて実習後も守秘義務を貫くこと。
- (3) 実習のことをSNSに投稿しない。
実習中にスポーツ選手が来院し、治療を受けたことをSNSに投稿した事例があった。学生は採用内定を取り消され、学校、医療機関とも謝罪した。

3、実習中の心構え

- (1) 積極的に学ぶ姿勢
 - ①指示された仕事が終わったら直ちに報告し、次の指示を求める。
 - ②清掃、後片付けなどは、支持されなくてもやるくらいの気持ちでいること。
ただし、質問する時にも相手の様子を見て、タイミングを考えること。
- (2) 時間厳守
 - ①開始時刻の5分前には仕事ができる体制になっていること。
 - ②出勤時は余裕を持って家を出る。絶対に遅刻しないこと。
やむを得ない場合には、必ず時間までに連絡をし、出勤後には担当者に報告すること。学校にも連絡をする。
- (3) 挨拶
 - ①朝「おはようございます」帰る際の「お疲れ様でした。お先に失礼いたします」の挨拶は全員にする。相手が気付いていなくても、自分から先に大きな声で行うこと。

- ②職員、患者様、患者様の家族など、区別なく挨拶を行うこと。
 - ③指示を受けたら「はい、かしこまりました」「はい、分かりました」などと必ず返事をする。分からなければ「もう一度お願いします」などはっきり意思表示をする。必要があればメモをし、内容を復唱すること。
 - ④何か教えていただいたときは「ありがとうございました」と感謝を示すこと。
（「はい、いいえ」だけでは不十分。）
 - ⑤呼ばれたら必ず返事をしてから起立して呼んだ人のところへ行く。
- (4) 報・連・相
- ①指示されたことは必ず責任を持って行う。分からないことは自分で勝手に判断せず、聞いてから実行する。
 - ②失敗したこと、出来なかったことは必ず報告し指示を仰ぐ。
（すぐに「すみませんでした」「申し訳ございませんでした」と素直に謝る）
次回からはミスをしないうように問題になったことについての理解を深める。
ミスをして注意を受けても引込み思案にならず「次からは」という前向きな気持ちを持つ。
- (5) 注意事項
- ①健康管理 規則正しい生活をする。アルバイトなどは行わない。
 - ②実習中に生じた事故については、軽重に関わらず、速やかに担任に報告する。
 - ③携帯電話の電源は切っておく。
 - ④任された仕事は、その日のうちに終わらせるのが原則。時間になったからといって、勝手に帰宅しないこと。（どうしても終わりそうにない時は、指示者に伝えて指示を仰ぐ）
 - ⑤実習終了時刻直前に仕事を依頼されても、嫌な顔をすることなく、快く引き受けること。

4、服装等

- (1) 学校または実習先で指示されたものを着用する。ストッキングはナチュラルな色にする。予備も持つておく。
- (2) 化粧はナチュラルメイク。香水は厳禁。カラーコンタクト、まつ毛エクステつけまつげも厳禁。
- (3) 爪は長く伸ばさないこと。マニキュア禁止。
- (4) 髪を染めたり、脱色しない。長い場合は結ぶ。前髪が顔にかからないようにする。男性も長さに気をつける。
- (5) ピアスなどのアクセサリはしない。透明ピアスも禁止。

(6) 清潔を心掛ける。男性は髭を毎朝剃る。

5、欠席する場合

(1) 欠席願・届の提出

①無断欠席をしない。

②緊急に欠席する場合、実習責任者へ電話連絡をし、学校にも連絡をする。

(2) 欠席する日が前もってわかっているとき（検定受験など）早めに届ける。

実習先の担当者に必ず理由・欠席日を伝え、学校にも連絡する。

「〇〇（理由）のため休ませていただきたいのですが、よろしいでしょうか」

(3) 欠席した翌日は「昨日は申し訳ございませんでした」と一言伝えることも忘れない。

6、実習終了にあたって

(1) 実習最終日に医療機関を退出する時には、全職員にお礼を述べ、挨拶する。

(2) 実習中借用した物品などは、必ず返却する。

ユニフォームをお借りした時は、クリーニングしてから返却する。

(3) 私物を置き忘れない。

7、実習日誌・実習記録

(1) 実習記録の意義

記録を書くことによって、表現能力や観察力を養う。

記録によって実習内容を明確にし、それを評価し、修正していくことができる。

これを繰り返すことで、実習の内容を意識することができ、自分自身の傾向が明らかになる。

職員から指導、助言をいただく際の資料となる。その助言を今後の実習に活かすことによって、自己成長につながる。

(2) 記録物の取扱い

①日誌は担当者に提出するため、丁寧にボールペンで書く。

②誤字、脱字に注意する。ひらがなを多用せず、漢字は調べて書くこと。

間違えた場合は定規で二重線を引いて訂正印を押すか書き直すこと。

- ③医療機関でのオリエンテーション、講和などがあった場合は、その概要を記録し、必ず自分の感想も記述しておく。
- ④質問したこと、その答えについても考えを書く。
- ⑤患者様の名前は具体的には書かない。
- ⑥提出する際に3回は見直すこと。
- ⑦指導者からいただいたコメントはよく読み、今後の実習に活かす。
- ⑧表現方法に気を付ける。
 - ・幼い表現やふざけた表現、なれなれしい表現はしない。
例：今日は疲れました。
患者さんが少なく暇だった。
 - ・見下した表現を使用しない。
例：患者様に頼まれたので〇〇してあげました。
困っている患者様がいたので、助けてあげました。
 - ・あいまいな言葉は使用しない。
例：今日はいろんな仕事をしました。
たいへんだなあと思いました。
 - ・「手伝い」という言葉や文字は使わない。すべて「実習」である。
 - ・「です・ます」に統一する。

8、その他

- (1) 実習のお礼として何か（品物・食事など）いただいた場合。
- (2) 食事や宴会などに誘われた場合。
- (3) 何かあったら、必ず学校に電話すること。

9、評価方法

「医療事務実習評価シート」、実習記録等

10、チェックシート

	項目	チェック欄
1	実習先について	
	①所在地・電話番号	<input type="checkbox"/>
	②代表者氏名（院長先生の氏名）	<input type="checkbox"/>
	③医療機関の特徴	<input type="checkbox"/>
	④通勤経路、所要時間の確認	<input type="checkbox"/>
	⑤担当者の所属・氏名の確認	<input type="checkbox"/>
2	実習初日について	
	初日の訪問場所と時間	<input type="checkbox"/>
	自己紹介の準備	<input type="checkbox"/>
3	準備物	
	①スーツ・白衣などの実習服	<input type="checkbox"/>
	②実習中の履物（ナースシューズ・スニーカーなど）	<input type="checkbox"/>
	③名札	<input type="checkbox"/>
	④筆記用具・メモ帳	<input type="checkbox"/>
	⑤実習日誌	<input type="checkbox"/>
	⑥弁当	<input type="checkbox"/>
	⑦電卓・関連テキスト（ <input type="checkbox"/> ）	<input type="checkbox"/>
	⑧その他	<input type="checkbox"/>
4	身だしなみ	
	①髪の色と髪形（男性は長さ）	<input type="checkbox"/>
	②ピアスなどのアクセサリー	<input type="checkbox"/>
	③爪の長さ、ネイル	<input type="checkbox"/>
	④カラーコンタクト、まつ毛エクステ	<input type="checkbox"/>
	⑤メイク	<input type="checkbox"/>
5	体調は万全であるか	<input type="checkbox"/>
6	実習の意義を理解しているか	<input type="checkbox"/>
7	実習の目標の確認はできているか	<input type="checkbox"/>

体験型実習事前学習シート

氏名 _____

1. 実習先医療機関名 _____

2. 所在地 _____

3. 実習日時 元号 _____ 年 _____ 月 _____ 日() ~ 元号 _____ 年 _____ 月 _____ 日()

4. 実習内容 *実習概要を確認して記入しましょう

--

5. 実習で確認したい内容(着眼点)をまとめましょう

①受付業務の着眼点

--

②患者対応の着眼点

--

③医療機関全体の着眼点

--

実習先概要確認書（学生）

実習医療機関	
所在地	〒 TEL () -
診療科目	
病院長氏名	
実習ご担当者	部署・役職名 氏名
実習期間	元号 年 月 日 () ~ 年 月 日 ()
実習時間	時 分 ~ 時 分 時 分 ~ 時 分
休日	
実習内容	
服装	通勤時： 勤務時： 履物：
持参品	弁当： 要 ・ 不要 その他：
通勤方法	
名札	要 （実習先用意 ・ 学校用意） 不要
その他	私物保管場所

アクセス

交通機関	区 間	所要時間
総所要時間	時間	分

医療事務実習日誌

実習病院名

実習期間

平成 年 月 日 ~ 月 日

医療福祉秘書学科 年

実習生氏名

出 欠 表

日付	時間	確 認 欄	
月 日 ()	: ~ :	印	欠 遅・早
月 日 ()	: ~ :	印	欠 遅・早
月 日 ()	: ~ :	印	欠 遅・早
月 日 ()	: ~ :	印	欠 遅・早
月 日 ()	: ~ :	印	欠 遅・早
月 日 ()	: ~ :	印	欠 遅・早
月 日 ()	: ~ :	印	欠 遅・早
月 日 ()	: ~ :	印	欠 遅・早
月 日 ()	: ~ :	印	欠 遅・早
月 日 ()	: ~ :	印	欠 遅・早
月 日 ()	: ~ :	印	欠 遅・早
月 日 ()	: ~ :	印	欠 遅・早
月 日 ()	: ~ :	印	欠 遅・早
月 日 ()	: ~ :	印	欠 遅・早

(記入例)

医療事務実習の記録

実習生氏名

年 月 日 ()	実習部署 実習診療科
今日の目標	
8:15	朝礼 ・本日の業務確認 窓口を開ける
8:30	・外来受付開始 (保険証、診察券処理)
9:00	・新規患者登録 ・外来個人フォルダの準備 ・受付にて患者対応 (新患 再来受付) ・入院手続き、カルテ整理など
11:30 ～	休憩 昼食
12:30	・外来受付 (ファイル仕分け) ・受付 (保険証の確認) ・予約入院患者の準備 (リストバンド、ネーム等作成) ・カルテ整理 ・外来個人ファイルに書類綴じ
14:00	入院病棟業務 ・入院業務の流れを説明いただく ・病棟内の説明と見学 ・患者カードの簡単な説明と作成方法
16:00	本日の実習ノートの作成
17:15	業務終了 ・身辺およびロッカーの清掃と明日の業務確認

(記入例)

医療事務実習の記録 (Ⅱ)

実 習 の 振 返 り	今日出来たこと (実施した業務や学んだこと)
	① 実習日誌を1日の業務終了後、その日の実習内容や所感、明日の目標などを記入後、担当者の方へ提出してください。
	② 記入はボールペンを使用し、誤字脱字に注意して修正には二重線を引き、訂正印を押し書き直すなど、丁寧に記入してください。(乱筆乱文の場合書き直しになります。)
	③ 学校への提出期限を実習後、○週間以内とします。
	④ この医療事務実習日誌が学校へ提出されない場合は欠席扱いとなります。出席率に影響がありますので十分に注意してください。
	うれしかったこと・トピックスなど
	今日の目標について (達成度や意識したことについて)
明日の目標設定	
自分自身の基本行動の振り返り (出来ていればチェックを入れる)	
<input type="checkbox"/> 挨拶 <input type="checkbox"/> 業務に対する積極性 <input type="checkbox"/> 身だしなみ <input type="checkbox"/> 言葉遣い <input type="checkbox"/> メモ・確認の徹底	
ご担当者コメント	
ご担当者 印	

医療事務実習の記録

実習生氏名

年 月 日 ()	実習部署 実習診療科
今日の目標	

医療事務実習の記録（Ⅱ）

実 習 の 振 返 り	今日出来たこと（実施した業務や学んだこと）
	うれしかったこと・トピックスなど
	今日の目標について（達成度や意識したことについて）
	明日の目標設定
自分自身の基本行動の振り返り（出来ていればチェックを入れる）	
<input type="checkbox"/> 挨拶 <input type="checkbox"/> 業務に対する積極性 <input type="checkbox"/> 身だしなみ <input type="checkbox"/> 言葉遣い <input type="checkbox"/> メモ・確認の徹底	
ご担当者コメント	
ご担当者 印	

記入例

体験型実習の記録

元号	年	月	日 ()	氏名
本日の目標		患者対応の時の職員の方の言葉づかいや説明の仕方を確認する		
実習内容記載欄			気づいた点等	
8:15				
8:30	・朝礼			
9:00	・本日の実習内容の確認			
	・外来受付開始			
	・受付にて患者対応 (新患 再来受付)			
11:30	休憩 昼食			
~				
12:30				
13:00	・外来受付			
	・書類整理の説明			
16:00	・本日の実習ノートの作成			
17:15	・実習終了 翌日実習確認			
				<ul style="list-style-type: none"> ・初めて来院した患者さんだけでなく、保険証を預かっていた。 ・保険証以外にも患者さんから、預かっているものがあった。 ・お年寄りの方には、ゆっくりはっきりと話をしているようだった。 ・午前中のカルテ整理をしているときに、保険証以外の受給者証のコピーを見せていただいた。職員の方からも説明をしていただいて、よく理解することができた。

ご担当者コメント

印

元号 年度 医療事務実習 巡回記録

巡回担当者		巡回日時	月 日 曜日	:
巡回実習先				
面談者	部署/役職		氏名	
実習生名				

実習生の状況

挨拶・言葉遣い	
<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない	コメント
コミュニケーション能力（患者・職員と）	
<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない	コメント
実習態度（意欲・積極性等）	
<input type="checkbox"/> 問題なし <input type="checkbox"/> 問題あり	コメント
実習日誌	
<input type="checkbox"/> 問題なし <input type="checkbox"/> 問題あり	コメント

就職等の状況

--

その他特記事項（学生の様子、学校への要望、その他気づいたこと・言われたことなど）

--

【医療事務実習後の礼状例文】

拝啓 貴院ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、この度、〇日間の実習におきましては、ご多忙の折にも関わらず、親身なご指導をいただき、大変に感謝しております。おかげさまで、貴重な体験をさせていただき、学ぶことの多い実習となりました。今後は、貴院で教えていただきましたことを活かして就職活動にも邁進する所存です。よろしくご指導賜りますようお願い申し上げます。

取り急ぎ書中にてお礼申し上げます。

敬具

元号〇〇年 〇月 〇日

△△△専門学校

□□□学科 〇〇〇〇コース

氏名

〇〇〇病院

××部(役職) ○○○○様

82円 切手	○○○-○○○○
○○市○○区○○町○丁目△番□号	
○○○病院	
××部(役職) ○○○○様	

○○○-○○○○	自分の住所 (学校名) 名前
----------	----------------------

【チェックポイント】

- ・封筒は白封筒で送ります。
- ・水性ボールペンで書きましょう。
- ・お礼状の用紙が1枚で完結した場合でも2枚(1枚は白紙)の便せんを重ねて送るのがマナーです。
- ・重さにより切手の値段が変わります。(25gまで82円、50gまで92円)

1. 業務補助型実習のまとめ
・実習担当講師名
負担金徴収の方法（定率・定額）
(1) 受付業務の手順を詳しく書きなさい。
(2) 受付業務の際、困ったことがあれば書きなさい。

<p>・電子カルテ導入の有無（有・無）</p> <p>(1) 保険請求事務の業務手順を書きなさい。</p>
<p>(2) 電子カルテの使用があれば、学校で使用している電子カルテとの操作上の違いを書きなさい</p>
<p>(3) 今後医療事務の授業で取り組んでもらいたいものがあれば書きなさい。</p>

医療事務業務の実習を終えて

－反省と今後の課題－

2. 診療録（病歴）管理業務について	
実 習 内 容	i. カルテのファイリング
	ii. カルテの集計
	iii. カルテの統計
	iv. カルテの整理、補修
v. その他	

診療録管理業務の実習を終えて

〈カルテ等診療録を取り扱った業務内容について、内容と感想を書きなさい〉

〈実習を通して診療録の大切さについて、どのように感じたかを書きなさい〉

医療事務実習を終えて

記入例

体験型実習のまとめ①

氏名

実 習 の 振 り 返 り	① 受付、患者対応業務で着眼点とした内容を記入しましょう。
	・受付手順をしっかり確認したい。
	・初めて来院された患者さんから質問された時の、対応の仕方等を確認したい。
	・保険証の確認の仕方を確認したい。
	② ①について、実習中に気づいた内容を記入しましょう。
	・保険証の確認は新患者さんだけでなく、月の初めに来院された患者さんも
	確認をしていた。
	・保険証の確認は、PCの画面で行っていた。記号番号や保険者番号、患者さん
	のお名前の漢字など、間違えてないように再度確認をしていた。
	③ ①について、今後就職活動を行っていくために必要なこと、
	努力していきたいことを記入しましょう。
	・受付で患者さんを目の前にすると緊張してしまったので、日頃から積極的に話を
	できるように行動していこうと思う。
	・職員さんたちは、とても早くPCの操作をされていて、びっくりした。授業の
中でも、タッチタイピングで素早く正しく入力できるように練習しようと思う。	
④ 体験型実習で感じたこと(改めて医療人に憧れた点)を記入しましょう。	

実習指導者からのコメント

業務補助型実習評価表【医療機関用】

医療機関名:

学校名:

実習期間(年 月 日 ~ 年 月 日)

実習期間中の実習学生評価のご記入をお願いいたします。

下表右の評価基準に照らして、1~3を評価欄にご記入下さい。

お手数ですが所感欄に、学生の実習意欲、態度等で特に評価いただける点などご記入をお願いいたします。

未実施の項目については、評価欄に斜線をご記入下さい。

記入日:元号 年 月 日

ご記入者名:

学科名:

氏名:

[4.14-①]

項目	評価欄	評価基準			
		1	2	3	
コミュニケーション	・患者に対して、コミュニケーションを図ることができる ・職員に対して、コミュニケーションを図ることができる	・相手の目を見ながら対応することが不十分である ・相手に伝えるべき内容を伝えることが不十分である	・相手の目を見ながら、対応することができる ・相手に伝えるべき内容を伝えることができる	・相手の目を見ながら、笑顔で対応することができる ・相手に伝えるべき内容を自分から積極的に伝えることができる	
職業意識	・業務指示に対して、対応することができる ・不明点について確認をしながら進めることができる	・指示内容の理解が不十分のまま、業務を行っている ・終了時の報告が不十分である	・指示内容を聞き、業務を行うことができる ・指示業務の終了時に、報告を行うことができる	・指示内容を丁寧に聞き、メモ、確認を行ってから、業務を行うことができる ・指示業務が終了したら、相手が理解しやすい報告を行うことができる	
接遇マナー	・業務を行うにあたり、ふさわしい身だしなみでのぞんでいる ・患者に対して、状況に応じた対応をすることができる ・職員に対して、状況に応じた対応をすることができる	・髪型、服装等、清潔感のある状態で業務を行うことが不十分である ・言葉遣いや話し方、表情や態度を意識せずに相手に対して対応をしている	・髪型、服装等、清潔感のある状態で業務を行うことができる ・丁寧な言葉遣いや話し方、相手に対して失礼のないような態度で対応をすることができる	・髪型、服装等、清潔感があり、業務を行いやすい状態で、実習に臨むことができている ・相手の状況や目的に合わせて、言葉遣いや話し方、表情や態度を意識して対応をすることができる	
業界理解	・実習先医療機関について調べ、実習に役立っている	・実習先医療機関の特徴について調べることができない ・事前学習と実習内容を関連づけて考えることが不十分である	・実習先医療機関の特徴について調べることができる ・事前学習と実習内容を関連づけて考えることができる	・実習先医療機関の特徴について調べた内容について、整理をし、主なものを説明することができる ・事前学習と実習内容を関連づけて考え、実習記録に事前に学習した内容を反映させることができる	
業務理解 (職員の説明を受けた後の評価基準とする)	患者案内 患者対応	・患者の特性に応じて、対応を行うことができる (例)高齢者、乳幼児・小児、感染症疑い、身体等不自由な患者等	患者の特性や状況の理解が不足しており、相手からの求めに対しての対応が不十分である	患者の特性や状況を理解し、相手からの求めに応じて対応を行うことができる	患者の特性や状況を理解し、積極的に声掛けや対応を行うことができる
	受付業務	・被保険者証の情報を読み取り、登録、診察券、診療録作成を行うことができる	被保険者証の保険情報(保険者番号、患者氏名、本人家族等)を確認することが不十分である	被保険者証の保険情報(保険者番号、患者氏名、本人家族等)を確認することができる	被保険者証の保険情報(保険者番号、患者氏名、本人家族等)を確認することができ、登録画面(記載用紙)に登録、診療録の作成を行うことができる
		・公費の医療受給者証の情報を読み取り、登録、診療録作成を行うことができる	医療受給者証を見て、公費負担者医療に係るものの理解が不十分である	医療受給者証から公費負担者番号、受給者番号を確認し、理解ができる	医療受給者証から公費負担者番号、受給者番号を確認することができ、登録画面(記載用紙)に登録を行うことができる
		・問診票について患者に説明を行い、対応をすることができる	問診票の患者への説明や患者からの疑問点等についての対応が不十分である	問診票の患者への説明は行うことができるが、患者からの疑問点等についての対応が不十分である	問診票の患者への説明を行うことができ、患者からの疑問点等についての、職員の指示を仰ぎながら対応することができる
	診療録等の運用管理	・再来院患者様の診療録等を適切に抽出することができる	再来患者の診察券を確認し、診療録等の取り出しが不十分である	再来患者の診察券を確認し、時間を要するが診療録等を取り出すことができる	再来患者の診察券を確認し、診療録等を正しく取り出すことができる
		・診療録等に保管するべき診療情報について、保管をすることができる ・個人情報の取り扱いに留意して、診療録を作成、取り出し、診療情報を保管することができる	診療録等の診療情報保管のルールについての理解が不十分である。 個人情報の取扱いについて理解が不十分であり、患者の提示した被保険者証や患者情報が記載されているものについて、返却が遅れてしまったりすることが度々ある	診療録等の診療情報保管のルールは理解しているが、正しい保管を行うことが不十分である 個人情報の取扱いについて理解しているが、患者の提示した被保険者証や患者情報が記載されているものについて、返却が遅れてしまったりすることがある	診療録等の診療情報保管のルールを理解し、ルールに従って正しく保管を行うことができる 個人情報の取扱いについて理解し、患者の提示した被保険者証や患者情報が記載されているものについて、迅速に返却をする等適切に取り扱うことができる
	外来診療の会計業務	・診療録等に記載された診療内容を読み取ることができる	・診療録等に記載された簡易な診療内容(外来)を読み取ることが不十分である	・診療録等に記載された簡易な診療内容(外来)を読み取ることができる (例) 投薬処置内容等	・診療録等に記載された簡易な診療内容(外来)を読み取ることができる (例) 患者の病態、医師の所見、処置内容等
		・オーダー実施の診療内容を把握することができる ・レセプトの内容について診療行為と病名等関連性を結びつけることができる	・オーダーリングシステムについての理解が不十分である ・レセプト請求業務について理解が不十分である	・オーダーリングシステムについて理解をしている ・レセプト請求業務について理解をしているが、診療行為と病名等の関連づけが不十分である	・オーダーリングシステムについて理解をし、説明することができる ・レセプト請求業務について理解をし、説明をすることができる ・レセプト請求を行う時に、診療行為と病名についての関連があるということが理解できる
	外来診療の流れ	・上記外来受付、診療録等の運用管理、入力点検の診療内容を理解し、患者対応を行うことができる	・外来業務全般(①~③)の理解が不十分である	・外来業務全般(①~③)を理解し、指示の下業務補助を行うことができる	・外来業務全般(①~③)を理解し、業務補助を進んで行うことができる

所感欄	
-----	--

業務補助型実習評価表【学生用】

[4.14-②]

学校名:

記入日:元号 年 月 日

実習期間(年 月 日 ~ 年 月 日)

学科名:

実習期間中の実習評価を記入しましょう。

氏名:

下表右の評価基準に照らして、1~3を評価欄に記入します。

実習医療機関:

また、所感欄に、実習中に頑張ったこと、意識して行動したことなど点などを記入しましょう。

項目	評価欄	評価基準			
		1	2	3	
コミュニケーション	・患者に対して、コミュニケーションを図ることができる ・職員に対して、コミュニケーションを図ることができる	・相手の目を見ながら対応することが不十分である ・相手に伝えるべき内容を伝えることが不十分である	・相手の目を見ながら、対応することができる ・相手に伝えるべき内容を伝えることができる	・相手の目を見ながら、笑顔で対応することができる ・相手に伝えるべき内容を自分から積極的に伝えることができる	
職業意識	・業務指示に対して、対応することができる ・不ポイントについて確認をしながら進めることができる	・指示内容の理解が不十分のまま、業務を行っている ・終了時の報告が不十分である	・指示内容を聞き、業務を行うことができる ・指示業務の終了時に、報告を行うことができる	・指示内容を丁寧に聞き、メモ、確認を行ってから、業務を行うことができる ・指示業務が終了したら、相手が理解しやすい報告を行うことができる	
接遇マナー	・業務を行うにあたり、ふさわしい身だしなみでのぞんでいる ・患者に対して、状況に応じた対応をすることができる ・職員に対して、状況に応じた対応をすることができる	・髪型、服装等、清潔感のある状態で業務を行うことが不十分である ・言葉遣いや話し方、表情や態度を意識せずに相手に対して対応をしている	・髪型、服装等、清潔感のある状態で業務を行うことができる ・丁寧な言葉遣いや話し方、相手に対して失礼のないような態度で対応をすることができる	・髪型、服装等、清潔感があり、業務を行いやすい状態で、実習に臨むことができている ・相手の状況や目的に合わせて、言葉遣いや話し方、表情や態度を意識して対応をすることができる	
業界理解	・実習先医療機関について調べ、実習に役立っている	・実習先医療機関の特徴について調べることができる ・事前学習と実習内容を関連づけて考えることが不十分である	・実習先医療機関の特徴について調べた内容について、整理することができる ・事前学習と実習内容を関連づけて考えることができる	・実習先医療機関の特徴について調べた内容について、整理をし、主なものを説明することができる ・事前学習と実習内容を関連づけて考え、実習記録に事前に学習した内容を反映させることができる	
業務理解 (職員の説明を受けた後の評価基準とする)	患者案内 患者対応	・患者の特性に応じて、対応を行うことができる 例)高齢者、乳幼児・小児、感染症疑い、身体等不自由な患者等	患者の特性や状況の理解が不足しており、相手からの求めに対する対応が不十分である	患者の特性や状況を理解し、相手からの求めに応じて対応を行うことができる	患者の特性や状況を理解し、積極的に声掛けや対応を行うことができる
	受付業務	・被保険者証の情報を読み取り、登録、診察券、診療録作成を行うことができる	被保険者証の保険情報(保険者番号、患者氏名、本人家族等)を確認することが不十分である	被保険者証の保険情報(保険者番号、患者氏名、本人家族等)を確認することができる	被保険者証の保険情報(保険者番号、患者氏名、本人家族等)を確認することができ、登録画面(記載用紙)に登録、診療録の作成を行うことができる
		・公費の医療受給者証の情報を読み取り、登録、診療録作成を行うことができる	医療受給者証を見て、公費負担者医療に係るものの理解が不十分である	医療受給者証から公費負担者番号、受給者番号を確認し、理解ができる	医療受給者証から公費負担者番号、受給者番号を確認することができ、登録画面(記載用紙)に登録を行うことができる
		・問診票について患者に説明を行い、対応をすることができる	問診票の患者への説明や患者からの疑問点等についての対応が不十分である	問診票の患者への説明は行うことができるが、患者からの疑問点等についての対応が不十分である	問診票の患者への説明を行うことができ、患者からの疑問点等について、職員の指示を仰ぎながら対応することができる
		・再来院患者様の診療録等を適切に抽出することができる	再来患者の診察券を確認し、診療録等の取り出しが不十分である	再来患者の診察券を確認し、時間を要するが診療録等を取り出すことができる	再来患者の診察券を確認し、診療録等を正しく取り出すことができる
	診療録等の運用管理	・診療録等に保管すべき診療情報について、保管をすることができる	診療録等の診療情報保管のルールについての理解が不十分である。	診療録等の診療情報保管のルールは理解しているが、正しい保管を行うことが不十分である	診療録等の診療情報保管のルールを理解し、ルールに従って正しく保管を行うことができる
		・個人情報の取り扱いに留意して、診療録を作成、取り出し、診療情報を保管することができる	個人情報の取り扱いについて理解が不十分であり、患者の提示した被保険者証や患者情報が記載されているものについて、返却が遅れてしまったりすることが度々ある	個人情報の取り扱いについて理解しているが、患者の提示した被保険者証や患者情報が記載されているものについて、返却が遅れてしまったりすることがある	個人情報の取り扱いについて理解し、患者の提示した被保険者証や患者情報が記載されているものについて、迅速に返却をする等適切に取り扱うことができる
	外来診療の会計業務	・診療録等に記載された診療内容を読み取ることができる	・診療録等に記載された簡易な診療内容(外来)を読み取ることが不十分である	・診療録等に記載された簡易な診療内容(外来)を読み取ることができる 例) 投薬処置内容等	・診療録等に記載された簡易な診療内容(外来)を読み取ることができる 例) 患者の病態、医師の所見、処置内容等
		・オーダー実施の診療内容を把握することができる	・オーダーリングシステムについての理解が不十分である	・オーダーリングシステムについて理解をしている	・オーダーリングシステムについて理解をし、説明することができる
		・レセプトの内容について診療行為と病名等関連性を結びつけることができる	・レセプト請求業務について理解が不十分である	・レセプト請求業務について理解をしているが、診療行為と病名等の関連づけが不十分である	・レセプト請求業務について理解をし、説明をすることができる ・レセプト請求を行う時に、診療行為と病名についての関連があるということが理解できる
外来診療の流れ	・上記外来受付、診療録等の運用管理、入力点検の診療内容を理解し、患者対応を行うことができる	・外来業務全般(①~③)の理解が不十分である	・外来業務全般(①~③)を理解し、指示の下業務補助を行うことができる	・外来業務全般(①~③)を理解し、業務補助を進んで行うことができる	

所感欄	
-----	--

業務補助型実習評価総括表

学校名: _____ 学科名: _____

氏名: _____

実習期間: 年 月 日 ~ 年 月

実習医療機関: _____

- ・評価①(自己評価)と評価②(医療機関評価)を記入しましょう。
- ・①と②の結果の違いの要因を考え、記入しましょう。
- ・今後の目標、実行のためのプランを記入しましょう。

評価結果のまとめ		①自己評価	②他者評価	①⇔②の結果の要因	今後の行動目標	目標実現のための計画
コミュニケーション	・患者に対して、コミュニケーションを図ることができる					
	・職員に対して、コミュニケーションを図ることができる					
職業意識	・業務指示に対して、対応をすることができる ・不明点について確認をしながら進めることができる					
接遇マナー	・業務を行うに当たり、ふさわしい身だしなみでのぞんでいる					
	・患者に対して、状況に応じた対応をすることができる					
	・職員に対して、状況に応じた対応をすることができる					
業界理解	・実習先医療機関について調べ、実習に役立てている					
業務理解	患者案内・患者対応	・患者の特性に応じて、対応を行うことができる 例) 高齢者、乳幼児・小児、感染症疑い、身体等不自由な患者等				
	受付業務	・被保険者証の情報を読み取り、登録、診察券、診療録作成を行うことができる				
		・公費の医療受給者証の情報を読み取り、登録、診療録作成を行うことができる				
		・問診票について患者に説明を行い、対応をすることができる				
		・再来院患者様の診療録等を適切に抽出することができる				
	診療録の運用管理	・診療録等に保管すべき診療情報について、保管をすることができる				
		・個人情報の取り扱いに留意して、診療録・診療情報を作成、取り出し、保管することができる				
	外来診療の会計業務	・診療録等に記載された診療内容を読み取ることができる				
		・オーダー実施の診療内容を把握することができる				
		・レセプトの内容について診療行為と病名等関連性を結びつけることができる				
外来診療の流れ	・上記外来受付、診療録等の運用管理、入力点検の診療内容を理解し、患者対応を行うことができる					

【業務補助型実習を取り組んでの今後の目標】

実習スケジュール【病院】

[4.15-①]

実習スケジュールのモデルケースを希望される実習医療機関様のご要望にお応えし、作成しております。
医療機関様の状況等によって異なり得ますので、参考までにご覧ください。

実習内容	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	担当者
1週目～ 実習内容	午前	受付対応 ・診察券、保険証預かり ・駐車券対応 ・外来患者様のお出迎え ・新患登録	各種外来① ・クラーク業務見学 ・診察室見学	各種外来① ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助	各種外来① ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助 ・入力業務補助	担当者
	午後	受付対応 ・診察券、保険証預かり ・駐車券対応 ・外来患者様のお出迎え	各種外来① ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助	各種外来① ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助 ・入力業務補助	各種外来① ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助 ・入力業務補助	各種外来① ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助 ・入力業務補助
2週目～ 実習内容	午前	各種外来② ・クラーク業務見学 ・診察室見学	各種外来② ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助 ・入力業務補助	オベ室見学	病棟クラーク業務 ・データ入力補助 ・伝票整理 ・入退院業務補助 ・退院時会計補助	担当者
	午後	各種外来② ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助	各種外来② ・クラーク業務補助 ・診察室内業務補助 ・入力業務補助	病棟クラーク業務 ・データ入力補助 ・伝票整理 ・入退院業務補助 ・退院時会計補助	病棟クラーク業務 ・データ入力補助 ・伝票整理 ・入退院業務補助 ・退院時会計補助	担当者
3週目～ 実習内容	午前	病棟クラーク業務 ・データ入力補助 ・伝票整理 ・入退院業務補助 ・退院時会計補助	外来医事会計業務 ・受付業務の補助 ・会計伝票チェック ・領収書チェック ・入力業務補助 ・金銭授受	外来医事会計業務 ・受付業務の補助 ・会計伝票チェック ・領収書チェック ・入力業務補助 ・金銭授受	外来医事会計業務 ・受付業務の補助 ・会計伝票チェック ・領収書チェック ・入力業務補助 ・金銭授受	担当者
	午後	病棟クラーク業務 ・データ入力補助 ・伝票整理 ・入退院業務補助 ・退院時会計補助	外来医事会計業務 ・受付業務の補助 ・会計伝票チェック ・領収書チェック ・入力業務補助 ・金銭授受	外来医事会計業務 ・受付業務の補助 ・会計伝票チェック ・領収書チェック ・入力業務補助 ・金銭授受	外来医事会計業務 ・受付業務の補助 ・会計伝票チェック ・領収書チェック ・入力業務補助 ・金銭授受	外来医事会計業務 ・受付業務の補助 ・会計伝票チェック ・領収書チェック ・入力業務補助 ・金銭授受

実習スケジュール【診療所】

[4.15-②]

実習スケジュールのモデルケースを希望される実習医療機関様のご要望にお応えし、作成しております。
医療機関様の状況等によって異なりますので、参考までにご覧ください。

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	担当者
1週目～ 実習内容	午前 業務全体説明 スタッフ業務を見学	業務全体説明 スタッフ業務を見学	受付対応 ・診療券、保険証預かり ・診療録を診察室へまわす ・検査結果を診察録に貼る ・体温、身長測定	受付対応 ・診療券、保険証預かり ・診療録を診察室へまわす ・検査結果を診察録に貼る ・体温、身長測定 ・問診票の説明 ・書類のコピー	受付対応 ・診療券、保険証預かり ・診療録を診察室へまわす ・検査結果を診察録に貼る ・体温、身長測定 ・問診票の説明 ・内線電話の対応	担当者
	午後 受付対応 ・診療券、保険証預かり ・診療録に日付印を押し診察室へまわす	受付対応 ・診療券、保険証預かり ・診療録を診察室へまわす	受付対応 ・レセコン入力 ・診療券、保険証預かり ・診療録を診察室へまわす ・レセコンで新患登録の説明を聞き登録する	受付対応 ・レセコン入力 ・診療券、保険証預かり ・診療録を診察室へまわす ・レセコンで新患登録を行う	受付対応 ・レセコン入力 ・診療券、保険証預かり ・診療録を診察室へまわす ・レセコンで新患登録を行う。 保険情報追加。 ・封筒への宛名書き	担当者
2週目～ 実習内容	午前 受付対応 ・診療券、保険証預かり ・診療録を診察室へまわす	受付対応 ・診療券、保険証預かり ・診療録を診察室へまわす ・金銭授受 ・処方箋、領収書について説明	診察室・処置室補助 ・ウォーターベットや電気治療の準備。説明 ・車いすの補助 ・内線電話の対応	受付対応 ・診療券、保険証預かり ・診療録を診察室へまわす ・金銭授受 ・処方箋、領収書について説明 ・来客対応	受付対応 ・診療券、保険証預かり ・診療録を診察室へまわす ・金銭授受 ・処方箋、領収書について説明 ・薬の発注電話かけ	担当者
	午後 受付対応 ・診療券、保険証預かり ・診療録を診察室へまわす ・レジ操作について説明を聞く	受付対応 ・診療券、保険証預かり ・診療録を診察室へまわす ・金銭授受 ・領収書について説明 ・来客対応、お茶出し	診察室・処置室補助 ・ウォーターベットや電気治療の準備。説明 ・車いすの補助 ・内線電話の対応	受付対応 ・診療券、保険証預かり ・診療録を診察室へまわす ・金銭授受 ・領収書について説明 ・タクシー会社へ電話かけ	受付対応 ・診療券、保険証預かり ・診療録を診察室へまわす ・金銭授受 ・レセコンへ診療内容入力 ・操作について説明を聞く	担当者
3週目～ 実習内容	午前 受付対応 ・診療券、保険証預かり ・診療録を診察室へまわす ・金銭授受 ・処方箋、領収書について説明	受付対応 ・診療券、保険証預かり ・診療録を診察室へまわす ・金銭授受 ・処方箋、領収書について説明	診察室・処置室補助 ・ウォーターベットや電気治療の準備。説明 ・車いすの補助 ・内線電話の対応	受付対応 ・診療券、保険証預かり ・診療録を診察室へまわす ・金銭授受 ・レセコンへ診療内容入力 ・外線電話の対応	受付対応 ・診療券、保険証預かり ・診療録を診察室へまわす ・金銭授受 ・レセコンへ診療内容入力 ・外線電話の対応	担当者
	午後 受付対応 ・診療券、保険証預かり ・診療録を診察室へまわす ・金銭授受 ・レセコンへ診療内容入力 ・外線電話の対応 ・日計表について	受付対応 ・診療券、保険証預かり ・診療録を診察室へまわす ・金銭授受 ・レセコンへ診療内容入力 ・外線電話の対応 ・予防接種の予約表を作成	診察室・処置室補助 ・ウォーターベットや電気治療の準備。説明 ・車いすの補助	受付対応 ・診療券、保険証預かり ・診療録を診察室へまわす ・金銭授受 ・レセコンへ診療内容入力 ・外線電話の対応 ・診断書の記入	受付対応 ・診療券、保険証預かり ・診療録を診察室へまわす ・金銭授受 ・レセコンへ診療内容入力 ・外線電話の対応	担当者
備考	・レセコン：レセプトコンピューター					

元号 年 月 日

●●●● (医療機関名) 実習ご担当者様

●●専門学校
学校長 ○○ ○○

医療事務実習アンケート(実習プログラムアンケート)ご協力をお願い

拝啓 ○○の候、貴院ますますご隆盛のこととお喜び申し上げます。今年度も本校の医療事務実習の取り組みに格別のご高配を賜り、厚くお礼を申し上げます。

次年度以後も学生指導、実習プログラムのより一層の充実をはかってまいりたいと存じます。つきましては、お忙しい中とは思いますが、以下の医療事務実習アンケートのご協力をお願いしたく、何卒宜しくお願い致します。記入後はお手数ですが、同封の返信用封筒にて本校実習担当 ●●までご返送をお願い致します。

ご不明な点がございましたら、以下までお問合せ下さい。

問合せ先 ●●●●専門学校
担当者 ●● ●●
連絡先 ●● - ●●●● - ●●●●

敬具

◇医療事務実習受入に関するアンケート

次の①～④の設問について、当てはまるものの回答欄に○をつけて下さい。

1以外に○をつけた設問については、コメント欄に具体案をご記入下さい。

①実習の依頼時期は適切でしたか

	項目	回答欄	コメント欄
1	適切だった		適切と思われる理由等ご記入下さい
2	もっと早い方が良い		具体的な時期をご記入下さい（ 月頃）
3	もっと遅い方が良い		具体的な時期をご記入下さい（ 月頃）

②実習の依頼方法は適切でしたか

	項目	回答欄	コメント欄
1	適切だった		貴院へのご依頼方法、適切と思われる理由をご記入下さい
2	別の方法が良い		具体的な依頼方法を次からお選び下さい 電話、訪問、郵送、メール、その他（ ）

③実習に関する書類は適切でしたか

	項目	回答欄	コメント欄
1	適切だった		適切と思われる理由等ご記入下さい
2	適切ではなかった		適切ではないと思われる理由をご記入下さい

④実習前の学校での事前学習については適切でしたか

	項目	回答欄	コメント欄
1	適切だった		適切と思われる理由をご記入下さい
2	適切ではなかった		適切ではないと思われる理由をご記入下さい

⑤実習の評価方法については適切でしたか

	項目	回答欄	コメント欄
1	適切だった		
2	適切ではなかった		適切ではないと思われる理由をご記入下さい ()

⑥その他、今回の実習プログラムについて、お気づきの点などございましたら、ご記入下さい

--

ご協力ありがとうございました

医療機関名		ご記入者名	
-------	--	-------	--

実習プログラム改善シート 【 体験型 ・ 業務補助型 】

作成日 元号 年 月 日

作成者

●今年度実習の取り組み

1. 実習前		●年度(今年度)実績		コメント欄
実習先選定	開始月			
	完了日			
書類送付	開始月		月	
	完了日		月	
書類返送	完了日		月	
事前学習				

2. 実習中		コメント欄
実習巡回		
実習ノート		

3. 実習後		コメント欄
実習評価(学生)		
実習評価(病院)		
事後学習		

●次年度改善案

項目	改善案	理由	変更に伴う懸案事項

平成30年度文部科学省委託「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
医療事務における効果的な連携事業を行うためのガイドラインを作成プロジェクト

「専修学校版デュアル教育」 医療事務分野実習ガイドライン

一般社団法人 全国専門学校教育研究会
〒107-0062 東京都港区南青山 2-2-15 ウイン青山 1403

●本書の内容を無断で転記、掲載することは禁じます。